

平成 26 年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

香川県教育委員会と香川大学教育学部との連携協力のさらなる充実・発展をめざして

香川県教育委員会と香川大学教育学部との連携協力は、「香川大学教育学部と香川県教育委員会とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る」という覚書の主旨に則り様々な観点から連携協力し、香川県の教育の充実・発展に寄与してきたものと思っております。

平成 26 年度の相互の連携協力については、これまで以上に積極的に行われました。特に香川大学教育学部においては、平成 28 年度を目指す教育学研究科の改組、特に教職大学院設置に向けての設置準備委員会の開催等、香川県教育委員会の全面的な協力支援を頂きました。そのお陰を持ちまして平成 26 年度中に設置審への申請書類を提出することができました。その折には、人事面でのご配慮を頂き、教育指導体制においても多大なるご理解とご支援を頂きました。

さて、本年度の連携事業も多方面にわたり活発に行われ、充実した成果を収めることができました。連携協力の取り組みには、協議会関係（2 項目）、教員養成に関するもの（5 項目）、教員研修に関するもの（7 項目）、調査研究に関するもの（1 項目）、事業に関するもの（13 項目）、その他（1 項目）の計 29 項目にわたって密度の濃い素晴らしい取り組みが実施されました。毎年 2 月に開催される連携協議会は、会議と情報交換会をセットにして相互の交流が活発化しております。また、調査・研究に関するものでは、思考力等の育成授業づくりモデル校事業など 5 項目について、本学部教員が積極的に関与させて頂き、本務にも大いに役立っております。さらに大学教員の公立学校現場での研修については、2 名の教員が高松市内の小中学校で実施し、貴重な現場経験を行うことができました。その他、学部主催行事の「未来からの留学生」や地域との連携による「わくわくコンサート」など教育学部の地域貢献事業に教育委員会の後援を頂き、年々充実し、香川県内に定着化しています。

平成 27 年度からの新しい教育学部のスタートと平成 28 年度改組を目指した大学院改革（教職大学院設置含む）を推進する上で、香川県教育委員会との連携協力は大きな支えとなっております。香川県教育委員会と香川大学教育学部の新たなステージを見据えて、連携協力のさらなる充実・発展をめざして、協働的、創造的な取り組みを推進していきたいと考えております。

平成 27 年 3 月

香川大学教育学部長

山 神 眞 一

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本県では、平成23年度に策定した「香川県教育基本計画」において「夢に向かってチャレンジする人づくり」の基本理念のもと、学校、家庭、地域社会が連携して子どもたちを育てることができるよう、確かな学力の育成と個に応じた教育の推進等を柱とした教育施策を積極的に展開しております。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携・協力に関する取組は13年を数え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸問題へ対応するため、多方面で連携・協力して行っているところです。

本年度の連携事業を振り返りますと、県教育委員会各課主催の、多くの事業に対してご支援・ご協力をいただきました。まず、新規採用者研修等の各種研修や88講座に及ぶ教員免許状更新講習では、講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただきました。また、思考力等の育成モデル事業等の研究指定校では、直接足を運んでご指導をいただき、県教育センター運営協議会においては貴重なご意見を頂戴し、様々な場面で力強いご支援をいただきました。更に、学生ボランティア派遣事業では、登録していただいた39名の学生の方に県内の各学校や教育支援センター等で子どもたちに寄り添っていただき、多くの感謝の声が寄せられております。次代を担う教員の養成については、公立学校インターンシップで、本県の教員採用が内定している41名が事前に学校現場を経験し、4月以降の教員としての職務の理解を深める等、これからの香川県の教育を担う人材が育っていることを心強く感じております。

また、県教育委員会から、今求められる教員の人材育成について、時代の要請に鑑み、カリキュラムの柔軟な運用を要望させていただいたところ、教育学部では2つの改革を実施していただきました。一つは、教員採用枠の拡大への対応として教員養成課程の定員を130名から160名に増員していただいたことです。もう一つは、これまで学問の体系から構成されていた課程内の各コースを、出口を重視して「幼児教育コース」「小学校教育コース」「中学校教育コース」に改編していただいたことです。これらの改革により、これまで以上に時代に合った教員の養成が図られると考え、感謝しています。

このように、香川大学教育学部と県教育委員会の連携・協力による取組は、年々充実・発展してきており、本県の教育を推進する上で、その役割はますます大きくなってまいります。県教育委員会としても、香川大学教育学部との緊密な連携・協力のもと、教育県香川の一層の発展に向け、最大限の努力をしてまいりたいと考えております。

平成27年3月

香川県教育委員会教育長

西原 義一

目 次

はじめに

- 香川県教育委員会と香川大学教育学部との連携協力のさらなる充実・発展をめざして
香川大学教育学部長 山 神 眞 一
- 香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて
香川県教育委員会教育長 西 原 義 一

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

【概要編】

- 平成 26 年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み一覧 ……………

【資料編】

- [資料 1] 平成 26 年度公立学校インターンシップ実施要領 ……………
- [資料 2] 公立学校教員等の活用 ……………
- [資料 3] 香川大学教育学部の専任教員として ……………
- [資料 4] 大学教員の公立学校現場での研修制度 ……………
- [資料 5] 平成 26 年度香川県教育委員会免許法認定講習（特別支援学校教諭） ……
- [資料 6] 教員免許更新講習計画 ……………
- [資料 7 - 1] 思考力等の育成モデル校事業……………
- [資料 7 - 2] 学習習慣形成モデル校事業 ……………
- [資料 7 - 3] 分かる授業づくり推進事業 ……………
- [資料 7 - 4] 幼児教育支援員派遣事業 ……………
- [資料 7 - 5] 豊かな心を育てる事業 ……………
- [資料 8] フレンドシップ事業 ……………
- [資料 9] 情報ネットワークによる大学と公立学校との連携・情報交換 ……………

- [資料 1 0] 高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）について ……
- [資料 1 1] 学生ボランティア派遣事業 ……
- [資料 1 2] 学生ボランティア派遣事業（放課後子ども教室） ……
- [資料 1 3] 未来からの留学生 ……
- [資料 1 4] 平成 26 年度特別支援教育コーディネーター養成専門研修 ……
- [資料 1 5] 平成 26 年言語活動指導力向上セミナー 開催要項 ……
- [資料 1 6] 理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー)養成拠点構築事業…

【覚書・要項】

- 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書 ……
- 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項 ……

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み

概 要 編

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

I 協議会関係

項 目	平成 26 年度実績	平成 27 年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連携協議会（H27.2.4） ○ 幹事会（H27.1.26） （1）平成 26 年度連携協議会について （2）平成 27 年度連携事業計画について <ul style="list-style-type: none"> ・継続連携事業について ・その他 （3）その他 	連携協議会開催 （H28.2 予定） ・幹事会（1 回程度）	
②報告書の作成 〔担当：県教委〕	○ 平成 25 年度実績報告書作成	・平成 26 年度実績報告書作成	

II 連携関係

1 教員養成に関するもの

項 目	平成 26 年度実績	平成 27 年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	正規 ・附高小 公立 1 校（参観）9 月（1 日間） ・附高中 公立 1 校（参観）9 月（1 日間） ・附坂小 公立 1 校（参観）9 月（1 日間） ・附坂中 公立 1 校（参観）9 月（1 日間） ・附特支 公立 3 校（参観）5・6 月（各 1 日間） ・附属幼 公立 1 園（参観）9 月（1 日間） ・附属幼高園 公立 2 園（参観）9 月（各 1 日間） 特別 ・附高小 公立 2 校（実習）5・6 月（10 日間） ・附坂小 公立 1 校（実習）5・6 月（10 日間） ・附高中 公立 1 校（実習）5 月（5 日間） ・附坂中 公立 1 校（実習）6 月（5 日間） ※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。	・継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	○ 教員採用内定者が公立学校で研修（予定） ・参加者予定：41 名（学生 39 名、院 2 名） ・実施期間 平成 27 年 2 月～3 月（5 日程度）	・継続実施	資料 1
③公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	○ 現職教員等が教育実践総合センター客員教授として講義 ・退職校長（松井保、藤本泰雄）、指導主事（山内秀則） ・年間 2 期、1 人 20～25 時間程度の講義 ○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義	・継続実施	資料 2
	○ 現職教員等 3 名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 池西郁広、谷本里都子、高木 愛	・継続実施	資料 3
④大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	○ 大学教員が公立学校現場で研修 ・研修者（2 名） 寺尾 徹 教授 高松市勝賀中学校 岡田 涼 准教授 高松市栗林小学校	・継続実施	資料 4
⑤総合教育実践研究コース 〔担当：教育学部〕	○ 公立校と附属学校園との連携協力のもとに、協力校における教育実践プログラムの実施 ・履修学生 当該受講者なし	・継続実施	

2 教員研修に関するもの

項 目	平成 26 年度実績	平成 27 年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 内地留学の実施 (H19.4～8名、H20.4～7名、H21.4～8名 H22.4～7名、H23.4～6名、H24.4～5名、H25.4～5名 H26.4～5名) ・教科教育(音楽、英語) 2名 ・学校臨床実践学 2名 ・学校臨床心理 1名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施	
②特別支援教育コーディネーター専修での現職教員の研修 (義務教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 内地留学の実施 (H25.4～ 4名、H26.4～ 4名)	・継続実施	
③教員免許状取得のための研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(7・8月)への大学教員の派遣等	・継続実施	資料5
④指導改善研修 (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 附属高松小学校で実践研修	・未定	
⑤教職員研修 (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 初任者研修等、各種研究会・研修会の講師・助言者として大学教員を依頼	・継続実施	
⑥特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 内地留学の実施 (H25.4～ 2名、H26.4～ 2名)	・継続実施	
⑦教員免許状更新講習 〔担当：教育学部〕	○ 教員免許状更新講習として必修講座 8、選択講座 80 の計 88 講座(8会場)を開設しました。	・教員免許状更新講習として必修講座 8、選択講座 81 の計 89 講座(8会場)を開設する予定	資料6

3 調査・研究に関するもの

項 目	平成 26 年度実績	平成 27 年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 思考力等の育成モデル校事業 ・ 学習習慣形成モデル校事業 ・ 分かる授業づくり推進事業 ・ 幼小連携モデル地区 ・ 豊かな心を育てる事業	・ 継続実施	資料 7 -1・2・ 3・4・5

4 事業に関するもの

項 目	平成 26 年度実績	平成 27 年度計画等	資 料
①フレンドシップ事業 〔担当：教育学部〕	○ 教育学部学生を対象とした、子どもたちとの 野外活動を通して、教育実践のための実践的指 導力の基礎を身に付ける研修 ・ 県教委職員を講師として派遣	・ 継続実施	資料 8
②情報ネットワークによ る大学と公立学校との連 携・情報交換 〔担当：教育学部〕	○ 大学が情報ネットワークを活用して大学の保 持する情報を提供	・ 継続実施	資料 9
③高大連携 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 公開授業：2 講座で 2 校 2 人が受講 ○ 体験授業：1 講座で 14 校 56 人が受講	・ 継続実施	資料 10
④学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 学生ボランティア派遣事業（登録者 37 名） ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など 公立小・中学校や教育支援センター（適応指 導教室）に延べ 36 名を派遣	・ 継続実施	資料 11
	○ 「放課後子ども教室」支援ボランティア等の募集 ・ 支援ボランティアとして 7 名登録	・ 継続実施	資料 12
⑤家庭教育支援推進事業 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 家庭教育に関する学習講座等に大学教員を派遣	・ 継続実施	
⑥未来からの留学生 〔担当：教育学部〕	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催（県 教委後援） ・ 約 1000 名が参加	・ 継続実施	資料 13

項 目	平成 26 年度実績	平成 27 年度計画等	資 料
⑦県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・継続実施	
⑧各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・継続実施	
⑨生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開 (6名受講)	・継続実施	
⑩特別支援教育体制整備 の推進事業 ・ 専門家チーム ・ 巡回相談 ・ 特別支援教育コーディネーター協議会 (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 体制整備の推進に関する指導・助言 ○ 学校(園)を訪問し、発達障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校(園)の支援体制について指導助言 ○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義	・継続実施	資料 14
⑪教材活用促進事業 (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員を支援機器等アドバイザーとして研究指定校に派遣 高松養護学校、香川西部養護学校 ○ 研究指定校教員を対象に教材開発や指導方法に関する相談会を開催	・継続実施	
⑫言語活動指導力向上セミナー (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 教員のことばの技能を高め、音読カップ審査員を養成する研修会に、香川大学で音読に関する行事を行う大学生が聴講生として参加	・継続実施	資料 15
⑬理数系教員養成拠点 構築事業 〔担当：教育学部〕	○ 日常生活や社会との関連を意識した授業実践力の向上をめざした CST (コア・サイエンス・ティーチャー) 養成システムを構築し、実践することをめざす。 ・ (独) 科学技術振興機構に採択された事業 (支援期間は平成 23 年度～平成 26 年度)	・継続実施	資料 16

⑭「発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業」 [担当：教育学部]	○発達障害等に関する専門的実践的知識の習得のためのプログラム開発や早期支援に関わる幼稚園・保育園と小学校の連携した研修プログラムの開発等に義務教育課，特別支援教一区か指導主事が委員として参加協力。	・継続実施	
--	--	-------	--

5 その他

項 目	平成 26 年度実績	平成 27 年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 平成 26 年度新規派遣 ※ () は合計数 ・附属高松小 4 (25) ・附属高松中 3 (19) ・附属坂出小 4 (18) ・附属坂出中 3 (19) ・附属特別支援学校 5 (45) ・附属幼稚園 2 (7) 計 20 名 (117 名)	・継続実施	

資 料 編

平成 26 年度公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

1. 目的

平成 27 年 3 月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学（院）生が、4 月以降の教員としての生活に先立ち、授業や学校行事、職員室での活動等、学校教育活動や教員の職務の実態に触れることにより、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深めるとともに、教員としての意識の向上を図る。

2. 対象者

平成 27 年 3 月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学（院）生の内、希望者

3. 参加人数

公立小学校	26 名
公立中学校	13 名
公立特別支援学校	2 名

4. 実施時期・期間

平成 27 年 2 月～平成 27 年 3 月の間で 1 週間（5 日程度）

5. 研修学（院）生、研修校及び研修予定期間

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立栗林小学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立栗林小学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立鬼無小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立新番丁小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立新番丁小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立川添小学校	2 月 16 日～2 月 20 日	
教育学部 4 年	高松市立林小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立木太北部小学校	2 月 23 日～2 月 27 日	
教育学部 4 年	高松市立古高松小学校	2 月 23 日～2 月 27 日	
教育学部 4 年	高松市立古高松小学校	2 月 23 日～2 月 27 日	
教育学部 4 年	高松市立川島小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立牟礼小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立国分寺北部小学校	2 月 16 日～2 月 20 日	

教育学部 4 年	高松市立桜町中学校	2 月 2 3 日～2 月 2 7 日	
教育学部 4 年	高松市立桜町中学校	2 月 2 3 日～2 月 2 7 日	
教育学部 4 年	高松市立玉藻中学校	2 月 2 3 日～2 月 2 7 日	
教育学部 4 年	高松市立紫雲中学校	2 月 9 日～2 月 1 3 日	
教育学部 4 年	高松市立紫雲中学校	2 月 9 日～2 月 1 3 日	
教育学部 4 年	高松市立高松第一中学校	2 月 2 3 日～2 月 2 7 日	
教育学部 4 年	高松市立太田中学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	高松市立龍雲中学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	丸亀市立城西小学校	2 月 2 3 日～2 月 2 7 日	
教育学部 4 年	丸亀市立城北小学校	2 月 9 日～2 月 1 3 日	
教育学部 4 年	坂出市立坂出小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	坂出市立坂出中学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	綾川町立綾上中学校	2 月 2 3 日～2 月 2 7 日	
教育学部 4 年	綾川町立綾南中学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	まんのう町立琴南小学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学部 4 年	三豊市立高瀬中学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	東かがわ市立大内小学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	東かがわ市立大川中学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学部 4 年	香川県立東部養護学校	2 月 2 日～2 月 6 日	
教育学研究科 2 年	香川県立盲学校	3 月 2 日～3 月 6 日	
教育学研究科 2 年	高松市立鶴尾小学校	2 月 1 6 日～2 月 2 0 日	

6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加
- 部活への直接指導はさせない。（見学は可）
- その他（研修校の判断による）

7. 事前・事後指導

(1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
 - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A 4 版 1 枚程度）、教育学部学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

(2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ、教育学部学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A 4 版 1 枚程度）

8. その他

研修の内容・方法等の詳細については、香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

平成26年度 第1期教育実践集中講座

「教師になる」とはということか？

～「先生」と呼ばれる日への第一歩～

- 【趣 旨】 ・ 教員採用試験にチャレンジするための準備講座である。
 ・ 教育法規について、具体的な事例をもとに演習を交えて学ぶ。

【担 当】 客員教授 松井 保（高松市総合教育センター研修指導員、高松市立桜町中学校元校長）
 客員教授 藤本 泰雄（高松市立栗林小学校元校長） 客員教授
 山内 秀則（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）

【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
4月24日(木) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習> (藤本) 【教育法規・教育施策】 「教師として生きる」	「教職の総合的研究」の講義 を活用して行う。(毛利先 生)
5月15日(木) (13:00~14:30)	811 講義室	<講義・演習> (藤本) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論」の講義を活用 して行う。 (毛利先生)
5月24日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習> (松井・山内) 【教育法規】 ケーススタディ 学校経営「教育目標と教師に求められる力」 生徒指導「信頼される教師をめざして」	「教育法規入門」の集中講義 を活用して行う。(谷本先 生、池西先生、高木(愛) 先生)
5月31日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習> (松井・山内) 【教育法規】 ケーススタディ 学校経営2「教育課程と学校評価」 生徒指導2「いじめ・不登校登校問題等への対応」	
6月5日(木) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習> (藤本) 【教職実践講座】 「集団討論・個人面接への対応」	「教職の総合的研究」の講義 を活用して行う。(毛利先 生)
6月7日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習> (松井・山内) 【教育法規】 ケーススタディ 学校経営3「『生きる力』の育成と学力」 生徒指導3「苦情等の対応と学警連携」	「教育法規入門」の集中講義 を活用して行う。(谷本先 生、池西先生、高木(愛) 先生)
6月16日(月) (10:30~12:00)	教授演	<講義・演習> (藤本) 【教職理解】 「教職を知る 教職の魅力」	「教職概論口」の講義を活用 して行う。 (植田先生)
6月18日(水) (13:00~16:10)	611 講義室	<講義・演習> (山内) 【子ども理解】 「授業づくりと子ども理解」	「教育実践プレ演習」の講義 を活用して行う。(七條先 生)
6月23日(月) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習> (松井) 【生徒指導】 ケーススタディ 「生徒理解を基盤とした生徒指導」	「生徒指導論B」の講義を活用 して行う。 (毛利先生)
6月28日(土) (10:00~12:00)	研究交流棟 5階	<講義・演習> (藤本) 東日本大震災の被災地調査報告会	「CST事業」を活用して行 う。(北林先生)
7月10日(木) (13:00~14:30)	811 講義室	<講義・演習> (藤本) 【子ども理解】 「場面指導(ロールプレイ)ー学級担任になって やってみようー」	「学級経営論」の講義を活用 して行う。 (毛利先生)

平成26年度 第2期教育実践集中講座

プロの教師とは何か？

～教師になるあなたへのエール～

- 【趣 旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。
・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

- 【担 当】客員教授 松井 保 (高松市総合教育センター研修指導員、高松市立桜町中学校元校長)
客員教授 藤本 泰雄 (高松市立栗林小学校元校長)
客員教授 山内 秀則 (香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)

【日 程】

日	場所	主 な 内 容	備 考
10月24日(金) (8:50~12:00)	621 講義室	<講義・演習> (松井・藤本) 【教育課題の探究】 「いじめと体罰」(松井) 「教員としての倫理観」(藤本)	「教職実践演習」の講義を活用して行う。(植田先生)
10月29日(水) (13:00~17:00)	415 講義室	<講義・演習> (松井・山内) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」シンポジウム 「教育実習を振り返って」助言	「教育実践演習A」を活用し、教育実習後の事後指導を兼ねる。(山岸先生)
11月10日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習> (藤本) 【教職理解】 「教職を知る 教職の魅力」	「教職概論(イ)」の講義を活用して行う。(植田先生)
11月28日(金) (8:50~12:00)	621 講義室	<講義・演習> (松井・藤本) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして～4月からの心がまえ～」 中学校(松井)・小学校(藤本)	「教職実践演習」の講義を活用して行う。(植田先生)
12月1日(月) (13:00~14:30)	432 講義室	<講義・演習> (山内) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(ロ)」の講義を活用して行う。(櫻井先生)
12月8日(月) (13:00~14:30)	432 講義室	<講義・演習> (松井) 【道徳教育】ケーススタディ 「教育活動の『要』としての道徳教育」	
12月18日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習> (山内) 【生徒指導】ケーススタディ 「望ましい人間関係づくりと生徒指導」 仮	「生徒指導論A」の講義を活用して行う。(毛利先生)
2月中旬 (日時未定)		実践センタープロジェクト実践講座(藤本) (卒業前直前対策)	

※問い合わせ先 附属教育実践総合センター事務室 TEL: 087-832-1683

香川大学教育学部の専任教員として

～12年目の取り組みと今後の展望～

池西郁広・谷本里都子・高木愛

1 12年目の活動内容 <資料3-2参照>

2 今年度の取り組みの重点

(1) 学校現場に即した授業の充実

交流人事教員が主担当となって実施している科目には、「授業実践論A」「生活科授業研究」「教育法規入門」「教職実践演習」「社会科教育法」がある。それぞれの授業では、学校の実践をふまえた授業を行っている。

「授業実践論A」では、担当教員の校種に合わせた専門研究分野を生かしたより実践的な学習を行っている。言語活動の充実を踏まえ、求められる基本的な授業づくり(話し方、板書の在り方等)を目指して指導案を作成させ、模擬授業を行わせるなど教科教育法にとらわれない授業を行っている。

「生活科授業研究」では、校外学習に焦点をあて、校外学習を行うにあたっての教師の留意点や教材研究、関係機関との連絡の取り方等を演習形式で学んだり、実際に引率実習したりする。写真は、高松市立新番丁小学校の1年生と一緒に香川大学で「秋みつけ」をしているところである。公立小学校と連携して行っているこの活動も本年で4年目を迎える。



1年生と「秋みつけ」

「教育法規入門」では、基本的な法規(教基法、学教法、免許法、教特法、地教行法、地公法など)及び答申・通知などについての理解を深め、法令遵守精神の高揚を図っている。今年度は新たな取り組みとして、教育に関する新聞記事を毎回配布し、解説することで教育時事への関心を高めた。また、客員教授による教育事情や生徒指導などについての集中講義も実施し、学校現場の状況についてもふれている。受講生は教員採用選考試験を受験する学生がほとんどである。

「教職実践演習」では、主体的に演習や研究会等に参加することを通して、これまでの学生生活で身に付けてきた教員としての資質能力を再確認し、より一層高めることを目的としている。グループワークを毎回取り入れ、チームとして取り組むことの重要性を再確認したり、他者の考えから自分の視野を広げたり、考えを深めたりしている。今年度は、校種や興味・関心に応じた選択コースを設定し、より学校現場に即した内容に改善している。また、香川県小学校・中学校の教育研究会高松支部のご協力をいただき、現職教員の研修に参加し、学び続ける教員の姿を実際に見ることによって今後の将来計画の一助となっている。

(2) 教育委員会・学校との連携

従前と同様、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めている。

今年度も、地域ブロック研修会での講師、四国大会などの指導助言者として、県内・外諸学校の教育活動推進に尽力してきた。

学生に対しては、学生支援ボランティアや学生支援員としての児童生徒へのかかわり方などの相談や、卒業研究に係る授業参観、アンケート調査の依頼、研究会への参加など、様々な体験ができるように配慮している。学校からは校外学習のサポート、学習支援の依頼などもあり、正規の手続きを踏まえて実施できるように連絡・調整を行っている。

(3) 学生の教員採用選考試験突破へのサポート

「教職概論Ⅰ」の授業では、初年次教育の重要性を鑑み、教員の使命や仕事、学校の仕組みについて講義を行ったり、教員の魅力ややりがいを伝えたりすることで、教育学部に入学してきた学生のモチベーションの向上に貢献できるように努めている。

「教職の総合的研究」の授業では、教員採用選考試験に向けて、学生が主体的に取り組めるように具体的な授業内容を講義したり、集団討論や模擬授業などの演習を実施したりしている。

また、学生は「教職自主サークル」と呼ばれる教員採用に向けた自主的な活動を、毎週月曜日18時から19時30分までの1時間半行っており、オブザーバーとして依頼されている。この活動には教員を志

望する学生が多く参加しており、学生同士で研鑽する場となっている。活動内容は、集団討論や模擬授業、場面指導などの演習をはじめ、各自治体の教員採用選考試験に関する情報・意見交換を行っている。交流人事教員も講師を務めるなどしてかわり、教員採用選考試験にとらわれることなく、教育課題をどうとらえるか、問題にどう対応するかなど、学生の考え方に対して、教員としての心構えなどの助言を行っている。今年度は、教員としての生活について、教職に就いている卒業生から話を聞く「卒業生と在校生の交流会」を実施した。

「教職自主サークル」での学生との交流や「教育法規入門」等の授業によるつながりにより、願書の添削や小論文指導、模擬授業の指導の依頼、また、悩みごとを抱える学生の相談等、交流人事教員の研究室を訪れる学生は多い。教育実習前・中には、指導方法や子どもへの接し方等について相談を受けたり、就職支援員の担当者を中心に、就職支援委員会の教員らとともに学生一人一人の就職支援を細やかに رفتりしている。

(4) 学外との連携

10月12日(日)、教育学部フェスティバル in 香大「未来からの留学生」に「音読教室」「LEGOで遊ぼう!」の講座を開設して、学生と子どもたちがふれあった。それぞれ教育実習などでは体験しがたい内容であり、教材教具を作成するアイデアや工夫、子どもにやり方を伝えるための語りかけ方などを学ぶよい機会となった。



未来からの留学生

学生企画イベントの「きょうから音読名人!」は8回目を迎え、60名以上の学生が企画運営に携わり

11月24日(月)、香川大学415教室で30名の児童を招いて発表会を開いた。プレイメントとして「未来からの留学生」で学生が行った「音読教室」を含め、計3回の音読教室を実施した。音読の指導も県教委主催の音読カップ審査員研修の言語活動指導力向上研修に参加させていただいたことで、今回も好評であった。学生が披露した菊池寛の作品による音読劇は、高松市の「寛学事業音読劇上演会」として高松市立亀阜小学校で上演する予定である。



学生による音読劇

(5) 研究活動の充実

昨年度から引き続き、教育実践総合センター実施の「教育実習を軸とした4カ年を見通した実地教育プログラムの改善に関する研究プロジェクト」と「教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト」に参画した。教員として必要な資質能力として実践的な能力の育成が求められている1年次から4年次までの実地指導の内容や指導体制の在り方を再点検し、教職を目指す学生にとってより有効性のある実地教育プログラムの改善に関する研究を推進している。また、教職を目指す学生への支援についての現状と課題を整理し、今ある支援体制の活性化に関する検討を行っている。

個人的な研究では、昨年に引き続き「挑戦的萌芽研究」を申請した。また、日本教育大学協会四国地区研究集会では、「教員養成に係る交流人事教員の取り組み」について発表を行った。さらに、全国教育系大学交流人事教員交流研究集会での実践発表を行った。

3 今後の課題

学生の自主的な活動をサポートし、より実践的な学びを保証するために、教育現場に即した内容を今後も提供していきたい。そのためにも、常に最新の教育に関する情報を集めたい。また、教育委員会や学校現場とのパイプを太く保ち続けていく必要がある。

教員の資質能力の総合的な向上が求められている今、交流人事教員それぞれの校種や経験から、教員という仕事のやりがいやすばらしさについて伝えるとともに、課題が山積する学校現場でたくましく歩んでいくことができるように応援していきたいと考えている。

大学教育の改革が進む中で、交流人事教員の重責を感じながら、現状に甘んじることなく、実務家教員としての資質向上に励んでいく所存である。

12年目の活動内容

1 学内における活動

(1) 委員会等

- <池西> 生活科実施委員会、学生支援専門委員会、教育実践総合センター企画推進委員、教育実習を軸とした4カ年を見通した実地教育プログラムの改善に関する研究プロジェクト委員、教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト委員、未来からの留学生アドバイザー
- <谷本> 生活科実施委員会、教育実習実施専門委員会、教育実習を軸とした4カ年を見通した実地教育プログラムの改善に関する研究プロジェクト委員、教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト委員、未来からの留学生アドバイザー、ときどきコンサートアドバイザー
- <高木> 生活科実施委員会、フレンドシップ実施専門委員会、教育実習を軸とした4カ年を見通した実地教育プログラムの改善に関する研究プロジェクト委員、教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト委員、未来からの留学生アドバイザー

(2) 授業等

- <池西> 大学入門ゼミ、道徳教育論イ、生活科授業研究、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、学校教育課程論A、教職概論イ・ロ、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論A、特別活動論ロ、教育実践演習A・B、教職実践演習、教育実践基礎研究Ⅰ・Ⅱ、就職セミナー、香川県教員採用予定者公立学校インターンシップガイダンス、教職自主ゼミ、卒論指導・主査、卒論副査
- <谷本> 教育学演習ⅠA、道徳教育論イ・ロ、学校教育課程論B、教職概論イ、教職実践演習、教育学演ⅡA・B、教育法規入門、教職の総合的研究、生徒指導論B、社会科教育法、授業実践論A、教育実践演習A・B、教育実践基礎研究Ⅰ・Ⅱ、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論副査
- <高木> 大学入門ゼミ、道徳教育論イ・ロ、教育学演習ⅠB、生活科研究イ・ロ、学校教育課程論B、教職概論イ・ロ、教育法規入門、教職の総合的研究、学校教育心理学イ・ハ、学校教育相談学A・B、特別活動論ロ、教育実践演習A・B、教育実践基礎演習、教職実践演習、教育実践基礎研究Ⅰ・Ⅱ、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論副査

(3) その他

- <池西> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「音読教室」講座担当、香川大学学生企画イベント「第8回 きょうから音読名人！」指導、花植えボランティア、オープンキャンパス(学生指導)、平成26年度前期授業公開FD研修会講師、卒業前対策講座担当
- <谷本> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「LEGOで遊ぼう！」講座担当、松楠会学内理事、キャンパス花いっぱい運動(秋期)ボランティア、オープンキャンパス(学生指導)、卒業前対策講座担当
- <高木> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「音読教室」講座担当、香川大学学生企画イベント「第8回 きょうから音読名人！」指導、松楠会学内理事、オープンキャンパス(学生指導)、卒業前対策講座担当

2 学外における活動

(1) 研究業績

<池西>

- (論文等)「香川大学教育学部における日常の教職支援の活用に関する研究」
『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第30号』2015.03(予)(共著)
「実務家教員の役割と多様な授業デザイン」
『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第30号』2015.03(予)(共著)
「教員養成に係る交流人事教員の関わりー「きょうから音読名人!」8年間の歩みー」
『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第30号』2015.03(予)
「第8回 きょうから音読名人!報告書」(2015.01)(「きょうから音読名人!」実行委員会)
(学会発表等)「教員養成に係る交流人事教員の取り組みー実践力を身に付ける「きょうから音読名人!」
への関わりー」
(平成26年度日本教育大学協会四国地区研究集会「鳴門集会」2014.12)
「香川大学における教職支援」(平成26年度交流人事教員交流研究集会2014.09)

<谷本>

- (編著者)『未来への扉を拓く道徳教育』(美巧社、2015.03(予))
(論文等)「香川大学教育学部における日常の教職支援の活用に関する研究」
『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第30号』2015.03(予)(共著)
(学会発表等)

<高木>

- (編著者)『未来への扉を拓く道徳教育』(美巧社、2015.03(予))
(論文等)「香川大学教育学部における日常の教職支援の活用に関する研究」
『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第30号』2015.03(予)(共著)
「フレンドシップ事業 実施報告書」(2015.03(予))(フレンドシップ実施専門委員会)
「第8回 きょうから音読名人!報告書」(2015.01)(「きょうから音読名人!」実行委員会)
「発達段階に応じた絵画指導実践」(2015.03(予))(平成26年度香川大学教育学部学術基金
研究助成)
(学会発表等)

(2) 社会的活動

<池西>

- (講演等)香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会、放送大
学面接授業講師
(その他)大学入試センター試験(監督)、「寛学事業音読劇上演会」指導・引率、第66回全国人権・同
和教育研究大会香川大会(会場開錠・設備準備等)

<谷本>

- (委員等)平成26年度道徳教育地域支援委託事業研究推進委員
(講演等)平成26年度道徳教育地域支援委託事業指導・講話(2014.6)、高松市総合教育センター 教
職2年経験者研修会、教職5年経験者研修会 スキルアップ(道徳教育)研修講座 指導・
講話(2014.8)、第24回四国小・中学校道徳教育研究大会 課題別分科会(第2分科会)指導・
助言(2014.10)、香川大学教育学部附属教育実践センター、松楠会共催 平成26年度 研究
交流会のシンポジスト(2015.02(予))、香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県保健師
助産師看護師実習指導者講習会
(その他)第48回 全日本中学校道徳教育研究大会(2014.10)、大学入試センター試験(監督)

<高木>

- (委員等)香川県がん教育推進委員
(講演等)
(その他)大学入試センター試験(監督)、「寛学事業音読劇上演会」指導・引率

大学教員の公立学校現場での研修制度

学校教員の実践的・臨床的な資質向上を図るためには、教員養成を担う教育学部がその授業の内容を学校現場と結びつけ、学校の「教育実践」という視点から再構成することが必要です。このためには、大学・学部教員が従来以上に学校現場との関わりを深める必要があります。

こうしたことから、香川大学教育学部では、平成 15 年より香川県教育委員会との連携のもと、大学・学部教員が学校現場で自己研鑽する制度を設けています。

平成 26 年度は、2 名の学部教員が公立学校現場で研修に取り組んでいます。

研修を行った大学教員

教授 寺尾 徹（専門分野：地球環境研究，気象学）
研修校 高松市立勝賀中学

准教授 岡田 涼（専門分野：心理・人間研究，学習心理学）
研修校 高松市立栗林小学校

平成26年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

2 開設科目、受講人員、期間

	開設科目	受講者数	月日
講義 I	聴覚障害児の心理・生理・病理 (中心となる領域：聴覚障害)	89名	7月26日(土)・27日(日) (講義16時間)
講義 II	肢体不自由児教育総論	95名	8月23日(土)・24日(日) (講義16時間)
講義 III	視覚障害児の教育課程・指導法 (中心となる領域：視覚)	84名	8月25日(月)・26日(火) (講義16時間)
講義 IV	重複・発達障害者教育総論	96名	8月27日(水)・28日(木) (講義16時間)

3 日程 (全講義同一日程)

時間	8:45	9:00	9:10	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:20	16:50
第1日	受付	オリエンテーション		講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧
第2日		受付		講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯

4 講師 (香川大学)

	期日	科目	講師
講義 IV	8/27	重複・発達障害者教育総論	教授 武藏 博文
	8/28午前		
	8/28午後		准教授 小方 朋子

1. 平成26年度 教員免許状更新講習 実施状況 (平成26年7月～11月)

	講座数	申込者数	受講者数 (認定数)	欠席者数	辞退者数	辞退講座数
必修講習	8	582	489	2	20	6
選択講習	80		1,357	7		24
廃止講座	1	合計	1,846	9	20	30
休講講座	1					

(1) 必修講座の実施状況

日 程	講 座 名	担当教員	受講者数 (実績)	会場	講義室名	欠席・辞退者・その他
7月5日(土)	1) 教育の最新事情<観音寺市>	松井 剛太	60	観音寺市立 中央図書館	多目的 ホール	欠席 1名
7月6日(日)		惠羅 修吉				
		山岸 知幸				
8月21日(木)	2) 教育の最新事情	七條 正典	109	教育学部	611講義室	欠席 1名
8月22日(金)		山田 俊介				
		柳澤 良明				
8月21日(木)	3) 教育の最新事情<さぬき市>	櫻井 佳樹	34	さぬき市 公民館	講堂	辞退 1名
8月22日(金)		宮前 義和				
		小方 朋子				
8月28日(木)	4) 教育の最新事情	加野 芳正	124	教育学部	611講義室	
8月29日(金)		毛利 猛				
		坂井 聡				
8月28日(木)	5) 教育の最新事情<土庄町>	小方 朋子	20	土庄町立 中央公民館	第1講座室	
8月29日(金)		大久保 智生				
		七條 正典				
9月6日(土)	6) 教育の最新事情	松井 剛太	66	教育学部	611講義室	
9月7日(日)		西田 智子				
		山岸 知幸				
10月4日(土)	7) 教育の最新事情<丸亀市>	葛城 浩一	38	丸亀市綾歌総合 文化会館 (アイレックス)	小ホール	辞退 2名
10月5日(日)		櫻井 佳樹				
		竹森 元彦				
11月15日(土)	8) 教育の最新事情	柳澤 良明	38	教育学部	611講義室	辞退者3名
11月16日(日)		毛利 猛				
		藪添 隆一				

(2) 選択講座の実施状況

日 程	講 座 名	担当教員	受講者数 (実績)	会場	講義室名	欠席・辞退者・その他
7月5日(土)	9) 食生活と健康	加藤 みゆき	13	教育学部	812講義室 調理学演習室	
	10) 学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント	石川 雄一	7	教育学部	811講義室 プール	
	11) VBAによるActiveX・フォームコントロールプログラム講座	宮崎 英一	6	教育学部	PCルーム(421)	
	12) 学校カウンセリングの基本	山田 俊介	27	教育学部	821講義室	
	13) 日本の選挙の動向と課題	堤 英敬	3	教育学部	演習室5	
	14) 電磁気学の基礎(Maxwellの方程式の意味)	服部 哲郎	0			申込者がいなかったため廃止
7月6日(日)	15) 教室の生成を考える	西岡 けいこ	5	教育学部	演習室3 西岡研究室	
	16) 衣生活の管理	小川 育子	8	教育学部	被服学実習室	
	17) 初歩の陶芸	倉石 文雄	16	教育学部	工芸実習室	
	18) 国際理解教育としての地理教育を考える	平 篤志	7	教育学部	811講義室 地理実習室	
	19) 器楽演奏のヒント	青山 夕夏	12	教育学部	ML教室	
		柳井 修				
20) 生活習慣と健康	宮武 伸行	52	医学部	看護学科 教育研究棟209	欠席 1名	
8月20日(水)	21) 外国人児童生徒と言葉について考える	山下 直子	4	教育学部	821講義室	
	22) 教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	136	教育学部	621講義室	辞退 1名
	23) 環境に優しい化学実験	高木 由美子	16	教育学部	教養教育 化学実験室	
	24) 実数論	岡 晋平	8	教育学部	822講義室	
	25) 国語科表現教育演習	佐藤 明宏	19	教育学部	811講義室	
	64) 特別な支援を要する幼児の保育を考える	松井 剛太	43	教育学部	411講義室	辞退 1名
8月21日(木)	26) 「いじめ」問題を考える	加野 芳正	30	教育学部	811講義室	欠席 1名
	27) 幼稚園教員の転換点について考える	片岡 元子	15	教育学部	821講義室	
	28) はじめての特別支援教育	小方 朋子	52	教育学部	812講義室	
		田中 栄美子				
	29) 小学校算数:「分数」について考える	長谷川 順一	5	教育学部	演習室2	
	30) 職業教育を考える	山田 貴志	4	教育学部	演習室3	
55) 訳語の再点検	松島 欣哉	4	教育学部	311講義室		
8月22日(金)	31) 子どもをとらえるあなた独自の見方を探る	有馬 道久	38	教育学部	413講義室	
	32) からだでこころで感じて動く表現の世界	藤元 恭子	21	教育学部	812講義室 多目的ホール	欠席 1名
	33) Photoshopを使ってみる	秋山 智	5	教育学部	デザイン実習室	
	34) 特別支援教育	西田 智子	38	教育学部	811講義室	
	35) 空間図形の指導を考える	風間 喜美江	12	教育学部	821講義室 第一体育館	
	36) ナノテクノロジーと電子材料	小柴 俊	1	工学部	6301講義室	
	37) 身のまわりの酵素の科学	亀下 勇	6	農学部	DN103実験室	

日 程	講 座 名	担当教員	受講者数 (実績)	会場	講義室名	欠席・辞退者・その他
8月27日(水)	38) 初等教育における第二言語(英語)習得支援を認知言語学から考える	山下 明昭	3	教育学部	演習室2	
	39) 理科に必要な思考操作の発達を促すイギリス型の授業の実習	笠 潤平	5	教育学部	教養教育 物理学実験室	
	40) これまでとこれからの食育を考える	藤原 章司	57	教育学部	812講義室	辞退1名 欠席1名
	41) 数、図形、方程式	藤田 和憲	18	教育学部	821講義室	
	42) 学齢期における社会的スキルの課題と対応	宮前 義和	24	教育学部	811講義室	
	43) 生活習慣病と循環器疾患	大森 浩二	38	医学部	臨床講義棟 1階講義室 臨床教育開発棟 スキルスホ'ラトリ-B	辞退1名
		野間 貴久				
村上 和司						
石澤 真						
44) 地球とその歴史を探る	寺林 優	15	工学部	6503講義室		
8月28日(木)	45) 学校教育の日独比較	柳澤 良明	14	教育学部	811講義室	
	46) 臨床心理学的な事例検討	竹森 元彦	14	教育学部	821講義室	
	47) 音楽学応用演習	稲田 隆之	7	教育学部	ML教室	
	48) 英語科における異文化理解—教材から言語文化情報を読み取る	竹中 龍範	9	教育学部	631講義室 (LL)	
	49) 組織文化論	木全 晃	9	教育学部	822講義室	辞退1名
	50) 生活習慣と神経・消化器疾患	峠 哲男	32	医学部	看護学科 教育研究棟 209講義室	辞退1名
筒井 邦彦						
8月29日(金)	51) 理科教育の基本的なところを改めて検討する	北林 雅洋	5	教育学部	演習室3	
	52) 小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	振替	教育学部	教養教育 物理学実験室	教員体調不良のため休講 10/5(土)へ振替
	53) 世界の美術教育におけるカリキュラム作成と評価	安東 恭一郎	4	教育学部	模擬教室 (二十四の瞳)	
	54) 日本古典文学を読む—土佐日記・伊勢物語・万葉集—	西山 弘子	10	教育学部	811講義室	
	56) ウイルス感染症	藤井 豊	36	医学部	看護学科 教育研究棟 209講義室	
	57) 植物の遺伝子解析	野村 美加	2	農学部	DN103実験室	
9月6日(土)	58) 子どもの心と社会のモラル	植田 和也	26	教育学部	811講義室	辞退 1名
	59) 運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	24	教育学部	821講義室 第一体育館	欠席 1名
	60) ESD(持続発展教育)の授業づくりを探る—新学習指導要領が求める「持続可能な社会」を実現する学習は「環境」だけ考えてもダメだ!	伊藤 裕康	1	教育学部	522講義室	
	61) 犯罪と被害をめぐる刑事司法の 現代的諸問題	平野 美紀	3	教育学部	演習室3	
	62) 果樹の生殖生理	別府 賢治	5	農学部	DS203 実験室	
9月7日(日)	63) 教育心理学からみた学習意欲	岡田 涼	30	教育学部	821講義室	
	65) 発達障害の心理学	惠羅 修吉	52	教育学部	822講義室	辞退 3名
	66) 郷土の歴史を学ぶ	田中 健二	29	教育学部	812講義室	
	67) ことばについて考える —日本語の音声を中心に—	轟木 靖子	20	教育学部	811講義室	欠席 1名
	68) TOEFLおよび英語到達度テストによる英語力評価	水野 康一	2	教育学部	演習室3	辞退 1名 欠席 1名

日 程	講 座 名	担当教員	受講者数 (実績)	会場	講義室名	欠席・辞退者・その他
10月4日(土)	69) 子どもの視座から教育実践を考える	山岸 知幸	10	教育学部	811講義室	辞退 2名
	70) 地学の最近のあたらしい話題について	松村 雅文	9	教育学部	教養教育 地学実験室	52)講座より1名振替
		寺尾 徹				
	71) 発達障がいのある幼児・児童・生徒とかがわかるために	坂井 聡	43	教育学部	821講義室	辞退 1名
	72) 絵画(木炭デッサン)制作	古草 敦史	10	教育学部	絵画実習室	
	73) 高校倫理と哲学教育	三宅 岳史	2	教育学部	522講義室	
	74) ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	12	教育学部	812講義室	
	75) ファイナンス論入門	嘉本 慎介	1	教育学部	演習室3	
76) 少子高齢社会における生活経営	時岡 晴美	1	教育学部	演習室2		
10月5日(日)	77) 水をテーマとしたフィールドワークの方法 -河川流域の姿を探る-	新見 治	19	教育学部	821講義室	
	78) 中国古典詩から考えるコミュニケーションのあり方 -『文選』所収の贈答詩をたよりに-	池田 恭哉	5	教育学部	812講義室	
	79) 発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	18	教育学部	ML教室	辞退 1名
	80) 事業再生と金融システム	藤原 敦志	2	教育学部	演習室3	
	52) 小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	7	教育学部	教養教育 物理学実験室	8/29(金)より振替 2名 別日程の他講座へ振替
11月15日(土)	81) 体育と学級づくりの事例研究	野崎 武司	8	教育学部	811講義室 多目的ホール	
	82) ヨーロッパの時代区分をめぐる諸問題	中谷 博幸	6	教育学部	演習室2	85)講座より1名振替
	83) ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう！→考えてみよう！ →やってみよう！	松下 幸司	5	教育学部	教授法演習室 PCルーム	
	84) カウンセリング・コミュニケーション	藪添 隆一	42	教育学部	821講義室	辞退3名 85)講座より5名振替
	85) ニュージーランドにおける中・高等学校での外国語教育:過去と現在	ポール・バテン	休講	教育学部	演習室3	受講生9名の内 他講座へ振替 7名 受講料返金 2名
	86) プログラミング言語の最新動向	香川 考司	2	工学部	6503講義室	
11月16日(日)	87) 性はなぜあるのか？	松本 一範	16	教育学部	812講義室	85)講座より1名振替
		篠原 渉				
	88) 今こそ「楽しい体育」の考え方で授業実践する！-体育における「子ども主体」の理論と実践-	田中 聡	23	教育学部	811講義室 体育館	辞退 2名
	89) 表現を探る - 楽曲の分析を通して -	岡田 知也	5	教育学部	ML教室	辞退 2名
	90) 植物ホルモン — エチレンの生成と作用について	小杉 祐介	4	農学部	CE106実験室	52)講座より1名振替

2. 平成27年度 教員免許状更新講習計画

注意：下記日程から、連続する2日間の必修講習1科目(12時間)と、それ以外の3日間で選択講習3科目(18時間)を選んで受講する必要があります。

日程	講座名	会場	担当教員	定員	対象	授業形式	試験方法
平成27年7月4日(土) ～ 平成27年7月5日(日)	1)教育の最新事情<観音寺市>	観音寺市立 中央図書館	松井 剛太 武蔵 博文 山岸 知幸 大久 保智生	70	全教員	講義	筆記試験
平成27年8月20日(木) ～ 平成27年8月21日(金)	2)教育の最新事情	教育学部キャンパス	毛利 猛 宮前 淳子 小方 朋子 葛城 浩一	100	全教員	講義	筆記試験
平成27年8月20日(木) ～ 平成27年8月21日(金)	3)教育の最新事情<土庄町>	土庄町立 中央公民館	七條 正典 岡田 涼 柳澤 良明 山本 珠美	30	全教員	講義	筆記試験
平成27年8月27日(木) ～ 平成27年8月28日(金)	4)教育の最新事情	教育学部キャンパス	七條 正典 山田 俊介 山岸 知幸 清國 祐二	100	全教員	講義	筆記試験
平成27年8月27日(木) ～ 平成27年8月28日(金)	5)教育の最新事情<丸亀市>	丸亀市綾歌 総合文化会館	有馬 道久 坂井 聡 松原 勝敏 葛城 浩一	80	全教員	講義	筆記試験
平成27年9月5日(土) ～ 平成27年9月6日(日)	6)教育の最新事情	教育学部キャンパス	櫻井 佳樹 西田 智子 柳澤 良明 加野 芳正	110	全教員	講義	筆記試験
平成27年10月3日(土) ～ 平成27年10月4日(日)	7)教育の最新事情<さぬき市>	さぬき市 津田公民館	毛利 猛 松本 博雄 小方 朋子 加野 芳正	70	全教員	講義	筆記試験
平成27年11月14日(土) ～ 平成27年11月15日(日)	8)教育の最新事情	教育学部キャンパス	松井 剛太 竹森 元彦 松原 勝敏 山本 珠美	110	全教員	講義	筆記試験
平成27年7月4日(土)	9)食生活と健康	教育学部キャンパス	加藤 みゆき	15	小学校教諭・中学校(家庭)教諭 高等学校(家庭)教諭・栄養教諭	講義・演習	筆記試験
	10)「動物文学」を分析する	教育学部キャンパス	渡邊 史郎	30	小学校教諭・中学校(国語)教諭 高等学校(国語)教諭	講義	筆記試験
	11) Graded Readersを利用した読解授業の試み-原作との比較を交えて-	教育学部キャンパス	山内 玲	5	中学校(英語)教諭 高等学校(英語)教諭	演習	口頭試験
	12) 対人関係ゲームによる仲間づくり(入門編)	教育学部キャンパス	宮前 淳子	40	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・養護教諭	演習・講義	筆記試験
	13) 英仏美術教育の現在形～英仏の芸術教育の取組に基づき美術教育の可能性を検討する～	教育学部キャンパス	安東 恭一郎	15	小学校教諭・中学校(美術)教諭 高等学校(美術・工芸)教諭 特別支援学校教諭	講義	筆記試験
	14) 学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント	教育学部キャンパス	石川 雄一	25	小学校教諭・中学校(保健体育)教諭 高等学校(保健体育)教諭 特別支援学校教諭	講義・演習	実技審査・レポート
	15) 生活習慣と健康	医学部キャンパス	宮武 伸行	50	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭・栄養教諭	講義	筆記試験
平成27年7月5日(日)	16) 衣生活の管理	教育学部キャンパス	小川 育子	16	小学校教諭・中学校(家庭)教諭 高等学校(家庭)教諭・特別支援学校教諭	講義・実験・実習・演習	筆記試験
	17) 小学校における「異年齢集団による交流」の取組み	教育学部キャンパス	毛利 猛	20	小学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	演習	筆記試験
	18) 小中高理科で扱う圧力と真空の世界	教育学部キャンパス	高橋 尚志	25	幼稚園教諭・小学校教諭 中学校(理科)教諭・ 高等学校(理科)教諭・特別支援学校教諭	講義・実験・実習	筆記試験
	19) 数や図形の見方の発展	教育学部キャンパス	佐竹 郁夫	25	中学校(数学)教諭・高等学校(数学)教諭	講義・演習	筆記試験
	20) 初歩の陶芸	教育学部キャンパス	倉石 文雄	16	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	演習	実技審査 及び就学態度

日程	講座名	会場	担当教員	定員	対象	授業形式	試験方法
平成27年8月19日(水)	21)幼稚園教員の転換点について考える	教育学部キャンパス	片岡 元子	20	幼稚園教諭	講義・演習	筆記試験
	22)学校教育の日独比較	教育学部キャンパス	柳澤 良明	25	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭	講義	筆記試験
	23)哲学教育とこども哲学	教育学部キャンパス	三宅 岳史	15	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭	演習	筆記試験
	24)初等教育における第二言語(英語)習得支援を 認知言語学から考える。	教育学部キャンパス	山下 明昭	20	小学校教諭	講義・演習	記述試験 発表/宿題の総合
	25)教師の指導が助長する問題行動とその見方	教育学部キャンパス	大久保 智生	100	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	講義	筆記試験
	26)精神看護学から人生論を考える	医学部キャンパス	渡邊 久美	20	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭・栄養教諭	講義	筆記試験
	27)環境刺激に対する植物の応答と適応	農学部キャンパス	藤田 政之	30	中学校(理科)教諭 高等学校(理科・農業)教諭	講義	筆記試験
	28)ナノテクノロジーと電子材料工学部	工学部キャンパス	小柴 俊	25	中学校(技術)教諭 高等学校(理科・工業)教諭	講義	筆記試験
平成27年8月20日(木)	29)外国人児童生徒と言葉について考える	教育学部キャンパス	山下 直子	15	小学校教諭・中学校教諭	講義・演習	筆記試験
	30)ことばについて考える -日本語の音声を中心に-	教育学部キャンパス	轟木 靖子	20	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭	講義と実習	筆記試験
	31)ヨーロッパの時代区分をめぐる諸問題	教育学部キャンパス	中谷 博幸	30	小学校教諭・中学校(社会)教諭 高等学校(地歴・公民)教諭	講義	筆記試験
	32)理科教育の基本的なところを改めて検討する	教育学部キャンパス	北林 雅洋	30	小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭	講義	筆記試験
	33)個に応じた支援と社会性育成	教育学部キャンパス	武蔵 博文	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	講義	筆記試験
	34)職業教育を考える	教育学部キャンパス	山田 貴志	10	高等学校(工業・農業・商業・水産)教諭	演習	筆記試験
平成27年8月21日(金)	35)これまでとこれからの食育を考える	教育学部キャンパス	藤原 章司	50	全教諭・養護教諭・栄養教諭	講義	筆記試験
	36)空間図形の指導を考える	教育学部キャンパス	風間 喜美江	30	小学校教諭・中学校(数学)教諭	講義・演習・ 実験・実習	筆記試験
	37)学齢期における社会的スキルの課題と対応	教育学部キャンパス	宮前 義和	30	小学校教諭・中学校教諭	講義・演習	筆記試験
	38)幼児期の発達理解と保育づくり	教育学部キャンパス	松本 博雄	30	幼稚園教諭	講義及び演習	筆記試験
	39)商品学	教育学部キャンパス	古川 尚幸	20	中学校(社会)教諭 高等学校(公民・商業)教諭	講義	筆記試験

日程	講座名	会場	担当教員	定員	対象	授業形式	試験方法
平成27年8月26日(水)	40)からだでこころで感じて動く表現の世界	教育学部キャンパス	藤元 恭子	25	幼稚園教諭・小学校教諭	実習	実技査査
	41)授業の情報化に伴う実験データの可視化とプレゼンテーション	教育学部キャンパス	黒田 勉	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	講義・演習	筆記試験
	42)特別支援教育	教育学部キャンパス	西田 智子	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	講義	筆記試験
	43)英語科における異文化理解—教材から言語文化情報を読み取る	教育学部キャンパス	竹中 龍範	30	小学校教諭・中学校(英語)教諭・高等学校(英語)教諭・特別支援学校教諭	講義	筆記試験
	44)成人のフィジカルアセスメントと高齢者疑似体験	医学部キャンパス	大森 美津子 當目 雅代 金正 貴美 野口 英子 小笠 美春 西村 美穂 政岡 敦子	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭・栄養教諭	演習	筆記試験
	45)理科教育現場に海を	農学部キャンパス	多田 邦尚	20	中学校(理科)教諭 高等学校(理科・農業)教諭	講義	筆記試験
平成27年8月27日(木)	46)国語科表現演習	教育学部キャンパス	佐藤 明宏	30	小学校教諭・中学校(国語)教諭 高等学校(国語)教諭	演習	筆記試験
	47)絵画(木炭デッサン)制作	教育学部キャンパス	古草 敦史	10	幼稚園教諭・小学校教諭 中学校(美術)教諭 高等学校(美術・工芸)教諭 特別支援学校教諭	実習	作品評価
	48)理科教育の新しい教材-科学的リテラシーと科学的思考力を育てるために	教育学部キャンパス	笠 潤平	20	幼稚園教諭・小学校教諭 中学校(理科・数学)教諭 高等学校(理科)教諭	講義・実習	筆記試験
	49)哲学の源流としてのギリシア哲学	教育学部キャンパス	齋藤 和也	20	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	講義	筆記試験
	50)小児保健	医学部キャンパス	日下 隆 岡田 仁 岩瀬 孝志 西庄 佐恵	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭・栄養教諭	講義	筆記試験
平成27年8月28日(金)	51)音楽学応用演習	教育学部キャンパス	稲田 隆之	20	小学校教諭・中学校(音楽)教諭 高等学校(音楽)教諭	講義	筆記試験
	52)数学の考え方	教育学部キャンパス	野原 雄一	30	中学校(数学)教諭・高等学校(数学)教諭	講義	筆記試験
	53)マーケティング・エコノミクス	教育学部キャンパス	大北 健一	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭	講義	筆記試験
	54)臨床心理学的な事例検討	教育学部キャンパス	竹森 元彦	20	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	演習	筆記試験
	55)バイオディーゼル燃料を作る	農学部キャンパス	川浪 康弘	20	中学校(理科)教諭・高等学校(理科)教諭	実験	筆記試験
	56)エクセルを用いた基本統計処理	工学部キャンパス	堀川 洋	20	小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭	講義・演習	課題演習
平成27年9月5日(土)	57)水をテーマとしたフィールドワークの方法-河川流域の姿を探る-	教育学部キャンパス	新見 治	20	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭	講義・実習	筆記試験
	58)教育心理学からみた学習意欲	教育学部キャンパス	岡田 涼	30	小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭 特別支援学校教諭	講義	筆記試験
	59)心の教育の在り方について考える	教育学部キャンパス	七條 正典	20	小学校教諭・中学校教諭	講義	筆記試験
	60)体育授業と学級づくりの実際	教育学部キャンパス	野崎 武司	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭	演習	筆記試験

日程	講座名	会場	担当教員	定員	対象	授業形式	試験方法
平成27年9月6日(日)	61)器楽演奏のヒント	教育学部キャンパス	柳井 修 青山 夕夏	15	小学校(音楽)教諭	講義・演習・ 実習	実技審査 及び筆記試験
	62)教育とユーモア	教育学部キャンパス	櫻井 佳樹	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	講義・演習	筆記試験
	63)地図に表れた高松400年の変化から学ぶこと	教育学部キャンパス	武重 雅文	20	小学校教諭・中学校(社会)教諭 高等学校(地歴・公民)教諭	講義と現地 見学	筆記試験
	64)ESD(持続発展教育)から始める道徳教育	教育学部キャンパス	伊藤 裕康	20	小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭	演習	筆記試験
	65)子どもの心と社会のモラル	教育学部キャンパス	植田 和也	40	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 養護教諭	講義	筆記試験
平成27年10月3日(土)	66)子どもの視座から教育実践を考える	教育学部キャンパス	山岸 知幸	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭・栄養教諭	講義・演習	筆記試験
	67)発達障がいのある幼児・児童・生徒とかわる ために	教育学部キャンパス	坂井 聡	30	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	講義	筆記試験
	68)ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	教育学部キャンパス	山本 茂喜	20	小学校教諭・中学校(国語)教諭 高等学校(国語)教諭	演習	筆記試験
	69)運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を 考える	教育学部キャンパス	米村 耕平	30	小学校教諭・中学校(保健体育)教諭 高等学校(保健体育)教諭	講義・実技	筆記試験
	70)環境に優しい化学実験	教育学部キャンパス	高木 由美子	30	小学校教諭・中学校(理科)教諭 高等学校(理科)教諭・特別支援学校教諭	演習	筆記試験
	71)地学の最近のあたらしい話題について	教育学部キャンパス	松村雅文 寺尾 徹	16	小学校教諭・中学校(理科)教諭 高等学校(理科)教諭	講義・実験	筆記試験
平成27年10月4日(日)	72)地球とその歴史を探る	工学部キャンパス	寺林 優	15	幼稚園教諭・小学校教諭 中学校(理科)教諭 高等学校(理科・農業)教諭 特別支援学校教諭	講義・実験	筆記試験
	73)体の中ではたらく分子	教育学部キャンパス	小森 博文	20	中学校(理科)教諭・高等学校(理科)教諭	講義	筆記試験
	74)数学――中・高の教材に潜む高等数学	教育学部キャンパス	内藤 浩忠	30	中学校(数学)教諭 高等学校(数学)教諭 特別支援学校教諭	講義	筆記試験
	75)「生活と環境」の授業研究	教育学部キャンパス	妹尾 理子	15	小学校教諭・中学校(家庭)教諭 高等学校(家庭)教諭	演習	筆記試験
	76)環境法	教育学部キャンパス	小澤 久仁男	30	中学校(社会)教諭・高等学校(公民)教諭	講義	筆記試験
	77)発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	教育学部キャンパス	若井 健司	15	幼稚園教諭・小学校教諭 中学校(音楽)教諭・特別支援学校教諭 養護教諭	講義・実技	実技審査
平成27年11月14日(土)	78)篆刻 ―印章の制作―	教育学部キャンパス	小西 憲一	24	小学校教諭・中学校(国語・美術)教諭 高等学校(書道・美術)教諭 特別支援学校教諭	講義と実習	実技審査 及びレポート
	79)思想史を学ぶ意義を考える	教育学部キャンパス	石川 徹	25	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭	講義	筆記試験
	80)ニュージーランドにおける中・高等学校での外国 語教育:過去と現在	教育学部キャンパス	ポール・パテ ン	20	中学校(英語)教諭・高等学校(英語)教諭	演習	口頭試験
	81)今こそ「楽しい体育」の考え方で授業実践する！ ―体育における「子ども主体」の理論と実践―	教育学部キャンパス	田中 聡	36	幼稚園教諭・小学校教諭 中学校(保健体育)教諭 高等学校(保健体育)教諭 特別支援学校教諭	講義と運動 実技	筆記試験
	82)ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう！→考え てみよう！→やってみよう！	教育学部キャンパス	松下 幸司	24	小学校教諭	講義・演習	作品評価 及びレポート
	83)青果物の鮮度保持入門	農学部キャンパス	川田 和秀	32	中学校(理科・技術)教諭 高等学校(理科・農業)教諭	講義及び実 験	筆記試験 及び実験レポート
	84)プログラミング言語の最新動向	工学部キャンパス	番川 考司	25	中学校(技術)教諭・高等学校(情報)教諭	講義	筆記試験

日程	講座名	会場	担当教員	定員	対象	授業形式	試験方法
平成27年11月15日(日)	85)性はなぜあるのか？	教育学部キャンパス	松本 一範 篠原 渉	25	幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭・特別支援学校教諭	講義	筆記試験
	86)表現を探る -楽曲の分析を通して-	教育学部キャンパス	岡田 知也	8	小学校教諭・中学校(音楽)教諭 高等学校(音楽)教諭	講義・演習	筆記試験
	87)刑事裁判と社会	教育学部キャンパス	吉井 匡	30	中学校(社会)教諭・高等学校(公民)教諭	講義	筆記試験
	88)資本主義の仕組み	教育学部キャンパス	沖 公祐	30	中学校(社会)教諭・高等学校(公民)教諭	講義	筆記試験
	89)発達障害の心理学	教育学部キャンパス	惠羅 修吉	30	幼稚園教諭・小学校教諭 中学校教諭・高等学校教諭 特別支援学校教諭・養護教諭	講義	筆記試験

思考力等の育成モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において言語活動を充実することにより、思考力、判断力、表現力等をはぐくむことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、児童生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむため、モデル校を指定して研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、各教科等の特質に応じた基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る言語活動を充実させた授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会はモデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立下笠居小学校	平成 26 年 5 月 15 日 (木) 13:00 ~ 16:30	教授 坂井 聡	ユニバーサルデザインの教育指導・講話
	平成 26 年 5 月 29 日 (木) 15:10 ~ 16:30	教授 伊藤 裕康	総合的な学習の時間授業検討会での指導
	平成 26 年 6 月 24 日 (火) 14:00 ~ 16:30	教授 伊藤 裕康	総合的な学習の時間授業の指導
	平成 26 年 8 月 8 日 (金) 9:00 ~ 11:00	教授 伊藤 裕康	総合的な学習の時間授業検討会での指導
	平成 26 年 9 月 11 日 (木) 14:00 ~ 16:30	教授 伊藤 裕康	総合的な学習の時間授業の指導
	平成 26 年 10 月 2 日 (木) 15:10 ~ 16:30	教授 伊藤 裕康	総合的な学習の時間授業検討会での指導
	平成 26 年 10 月 7 日 (火) 16:10 ~	教授 伊藤 裕康	総合的な学習の時間授業検討会での指導
	平成 26 年 11 月 4 日 (火) 11:00 ~ 16:30	教授 坂井 聡	ユニバーサルデザインの教育指導・講話
観音寺市立豊浜小学校	平成 26 年 6 月 11 日 (水) 14:00 ~ 16:30	教授 佐藤 明宏	国語の授業の指導
	平成 26 年 10 月 8 日 (水) 14:00 ~ 16:30	教授 佐藤 明宏	国語の授業の指導

※ モデル校の研究内容

- 高松市立下笠居小学校

研究主題 他と関わり合いながら、主体的に学ぶ児童の育成
～交流活動を通して、生き生きと学び合う子どもの姿を目指して～

■ さぬき市立長尾小学校

研究主題 自他のよさを認め合い、共に学び、高め合う子どもの育成
～思考力・表現力を高める言語活動の充実～

■ 観音寺市立一ノ谷小学校

研究主題 確かな学力を身に付け、主体的に学び合おうとする子どもの育成
～教材研究に裏打ちされた板書とノート指導の工夫～

■ 観音寺市立豊浜小学校

研究主題 生きて働く確かな力をつける学びの創造
～伝え合い 学び合う場の充実を図る～

■ 綾川町立昭和小学校

研究主題 自分の思いや考えをしなやかに表現できる昭和っ子
～豊かなかかわりを通して、主体的に学び合う学習～

学習習慣形成モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、指導方法の工夫改善に加えて、家庭における生活リズムの改善や家庭学習の習慣化が重要であり、家庭や地域と連携して、基本的な生活習慣や学習習慣を形成することが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習習慣の形成に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、学習習慣の確立を図る指導及び家庭や地域との連携の在り方等を先導的に研究し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会はモデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
三豊市立二ノ宮小学校	平成 26 年 5 月 28 日 (水) 15 : 15 ~ 16 : 30	教授 佐藤 明宏	家庭学習についての講話
	平成 26 年 7 月 24 日 (木) 9 : 00 ~ 11 : 30	教授 佐藤 明宏	研究の方向性・内容への指導

※ モデル校の研究内容

- さぬき市立津田小学校
研究主題 主体的に学ぶ児童の育成
～わかるできる授業から学習習慣の形成を図る『わくわく学習』～
- 三豊市立二ノ宮小学校
研究主題 確かな学力を育む主体的に学び続ける学習習慣の形成
～個々の基本的な生活習慣と学びへの振り返りと見通す力に着眼して～
- 綾川町立羽床小学校
研究主題 主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う子どもの育成
～授業での学びと家庭学習とつなぐノート指導を通して～

分かる授業づくり推進事業

1 趣旨について

生徒に確かな学力を育むためには、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図り、学習意欲を向上させ、学習方法を身に付けさせることが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に生徒の学力の定着に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、確かな学力の向上のため、生徒一人一人が学習内容を理解し、分かる喜びを感じられる授業実践等を先導的に研究し、その成果を普及することで県下の生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、授業づくりに向けた校内研修会を実施し、授業の積極的な公開に努めるとともに、研究成果の積極的な普及・啓発に努め、教員の指導力の向上を図る。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などモデル校を適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
観音寺市立 中部中学校	平成 26 年 6 月 16 日 (月) 15 : 00 ~ 16 : 30	准教授 植田 和也	研究への指導と講話
	平成 26 年 8 月 25 日 (月) 13 : 00 ~ 15 : 00	准教授 植田 和也	研究協議会での指導
	平成 26 年 11 月 13 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 30	准教授 植田 和也	研究協議会での指導

※ モデル校の研究内容

■ 高松市立協和中学校

研究主題 学級全員が授業に主体的に参加する学校づくり
～協同学習による授業改善～

■ 観音寺市立中部中学校

研究主題 学ぶ喜びを実感し、主体的に学習する生徒の育成
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善～

幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園に派遣することによって、「香川県幼児教育振興プラン」（平成 22 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者

No.	氏名	役職 分野
1	松井 剛太	香川大学教育学部准教授 家政教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部准教授 幼児教育
3	片岡 元子	香川大学教育学部准教授 幼児教育
4	金子 之史	香川大学教育学部名誉教授 理科教育

- (2) 県教育委員会指導主事

2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園の申請に基づき、幼稚園を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

3 派遣実績（8市町17園）

	園名	訪問日時	研修内容	支援員
1	さぬき市立長尾幼稚園	6月18日（水）全日	一人一人の内面の読み取りと育ちのつながり	金子之史先生
2	まんのう町立仲南東幼稚園	6月25日（水）午前	幼稚園教育の継承 ～「こども園」に向けて～	片岡元子先生
3	直島町立直島幼稚園	6月25日（水）午後	幼児期にふさわしい協同性・集団性の育ち	金子之史先生
4	宇多津町立宇多津幼稚園	6月26日（木）午後	学び合いについて～保・幼・小・中合同研修～	金子之史先生
5	三豊市立麻幼稚園	6月27日（金）全日	科学的思考力や探求心を育てる環境と援助	金子之史先生
6	まんのう町立四条幼稚園	7月2日（水）午前	協同性を育くむための援助の在り方	片岡元子先生
7	高松市立香南幼稚園	9月19日（金）全日	表現する意欲や態度を高める環境構成と援助	松本博雄先生
8	東かがわ市立本町幼稚園	9月22日（月）午後	多面的な視点からの幼児理解	松本博雄先生
9	三豊市立大浜幼稚園	9月26日（金）午前	一人一人が自己発揮できる異学年交流	松本博雄先生
10	まんのう町立高篠幼稚園	9月30日（火）午前	主体的な学びとしての遊び	松井剛太先生
11	三豊市立大見幼稚園	10月2日（木）全日	一人一人の心の動きや育ちを育てる	金子之史先生
12	高松市立国分寺北部幼稚園	10月21日（火）午前	自尊感情を高める援助、温かいなかまづくり	片岡元子先生
13	綾川町立粉所幼稚園	10月22日（水）午前	遊びこむための教師の支援について	片岡元子先生
14	さぬき市立志度幼稚園	10月24日（金）全日	子どもの内面を理解し育ちへつなぐ園内研修	金子之史先生
15	さぬき市立さぬき北幼稚園	11月19日（水）全日	子どもの心が動く環境構成、記録の仕方	松井剛太先生
16	高松市立檀紙幼稚園	12月16日（火）午後	協同性の育ち ～小学校教育との連携から～	松井剛太先生
17	さぬき市立寒川幼稚園	1月27日（火）全日	遊び込む中で育つ豊かな心と言葉	松井剛太先生

豊かな心を育てる事業

道徳教育推進のポイント

- ◆ 道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う指導の工夫
- ◆ 全教師の協力による道徳教育の展開
- ◆ 家庭、地域社会との効果的な連携
- ◆ 心の成長が実感できる評価の工夫

趣旨

道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行われるものとされており、各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実と共に道徳の時間の指導の充実が求められている。平成 26 年 10 月には中央教育審会より、道徳の時間を「特別の教科 道徳」(仮称)として位置付ける答申も出されている。そこで、平成 22、23 年度に作成した児童生徒が感動を覚えるような魅力的な教材を活用して、道徳の時間等を充実させるとともに、子どもの発達の視点を踏まえ、豊かな心を育てるための啓発を推進する。



「いのちのせんせい」派遣事業

- 常に「生」や「死」に直面している助産師や介護福祉士、獣医師、手話通訳士など、命を守り、命を大切にしていく意味を語ってくださる方を「いのちのせんせい」として各学校の教育課題や希望により派遣し、より体験的、感動的な道徳教育を展開する。
 - ◆平成 26 年度 128 校に派遣予定 (6~2 月)

道徳教育指導力向上研修

- 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実、これまでに作成した教材や心のノート香川県版の活用、道徳の時間等で学んだことを生かした地域に貢献していく活動や地域とのかかわりをもった取組等、道徳教育の充実に関する研修会を開催する。
 - ◆平成 26 年 5 月 30 日 (金) 高松テルサ 講演：七條正典教授、教材を活用した演習
 - ◆平成 27 年 2 月 20 日 (金) 予定 高松テルサ 中央研修報告、国の方針の伝達、部会別協議

道徳教育地域支援事業 (国)

- 学校や地域の実情に応じた特色ある道徳教育を推進する。
- 県教委が作成している地域読み物資料「新ふるさとの心」を印刷・児童生徒に配布することで、道徳の時間の学習等での積極的な活用を推進する。
 - ◆12 月に配布
 - 道徳教育研究推進校における実践研究 (平成 26 年度研究推進校 高松市立龍雲中学校、坂出市立坂出中学校、三豊市立高瀬中学校)
 - ◆第 1 回推進会議 (平成 26 年 6 月 5 日) での講話：谷本里都子准教授

平成26年度 フレンドシップ事業「教育実践基礎演習」 実施計画

学校教育教員養成課程の選択科目として開講される平成26年度「教育実践基礎演習」は、平成26年度フレンドシップ事業に基づき実施される。ここでは、受講者が、学校教育の場である学校から離れた野外での子どもたちとふれあう様々な活動体験を通して、子どもの気持ちや行動を理解し、教育実践のための実践的指導力の基礎を身に付けることを目的としている。

1 実施組織

(1) 専門委員

七條 正典	(附属教育実践総合センター)
柳澤 良明	(学校教育)
片岡 元子	(幼児教育)
風間喜美江	(数学教育)
稲田 隆之	(音楽教育)
竹中 龍範	(英語教育)
高木 愛	(教職実践)
松下 幸司	(附属教育実践総合センター)

(2) 事務担当

高橋 郷子	(学務係長)
小橋 美幸	(学務係)
松井 梨奈	(附属教育実践総合センター)

(3) 関係機関

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課
香川県立五色台少年自然センター
香川県立屋島少年自然の家
高松市立栗林小学校
香川大学教育学部附属坂出小学校

2 受講者

教育学部2年次学生

(受講者数に応じて3年次学生・4年次学生・他学部で教員を志す学生も受講可)

3 評価

評価は、授業への参加と参加体験等に関する活動の記録・レポートを基に、平成26年度フレンドシップ事業実施専門委員会において行い、合格者には2単位を認定する。

4 実施日程及び場所

(1)オリエンテーション

平成26年 4月16日(水) 13:00～15:00 於:教育学部教授法演習室

(2)事前研修

平成26年 5月 7日(水) 13:00～16:00 於:教育学部教授法演習室
(学生は12:30集合)

(3)野外教育体験

■指導者講習野外教育体験活動(1泊2日)

平成26年 5月24日(土)～5月25日(日) 於:五色台少年自然センター
五色台少年自然センターにおける指導者講習会に参加

■附属小学校・公立小学校の野外教育体験活動(宿泊研修)に参加(A、B選択)

A 附属坂出小学校:屋島少年自然の家(1泊2日)

平成26年 7月 1日(火)～2日(水)

B 高松市立栗林小学校:屋島少年自然の家(1泊2日)

平成26年 7月11日(金)～12日(土)

→台風のため9月26日(金)～27日(土)に延期実施

(4)野外教育体験シンポジウム

平成26年 7月23日(水) 13:00～16:10 於:教育学部教授法演習室

5 授業内容

(1)オリエンテーション 4月16日 担当:専門委員・事務担当

平成26年度フレンドシップ事業として実施する「教育実践基礎演習」の概要と
実施計画に関する説明

(2)事前研修 5月 7日

講師:香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課

香川県立屋島少年自然の家

香川県立五色台少年自然センター

高松市立栗林小学校

教育学部附属坂出小学校

①生涯学習社会における野外教育の意義についての理解

②野外教育関連施設であり、野外教育体験活動実施場所(附属坂出小・高松市立栗林小)である
「香川県立屋島少年自然の家」の施設や事業概要、ならびに同施設での野外活動参加に際して
の諸注意等について

③附属坂出小学校及び高松市立栗林小学校の野外教育体験活動の日程及び内容等についての説明、
参加する際の諸注意等について

④野外教育関連施設であり、指導者講習会実施場所である「香川県立五色台少年自然センター」の
施設や事業概要、ならびに同施設で実施される指導者講習会参加に際しての諸注意等について

⑤各事業の実施に補助者として参加する上での心構えと補助者として必要な実践的活動の理解

(3)野外教育体験

①【共通】野外教育体験活動の補助者として必要な実践的な知識の習得のための研修活動

五色台少年自然センターにおける指導者講習会に参加（5月24～25日／1泊2日）

②【選択】野外教育体験活動が実施される場における補助者としての役割の遂行（AorB選択）

A（附坂小）7月 1日～ 2日（1泊2日／屋島少年自然の家）

B（栗林小）7月11日～12日（1泊2日／屋島少年自然の家）

→Bは台風のため9月26日（金）～27日（土）に延期実施

(4)野外教育体験シンポジウム 7月23日

受講者の体験報告、及び授業実施者・関係機関の方々からの提言等を基にシンポジウムを行う。
主に以下の2点について受講者が学ぶ機会としたい。

①受講者には、本事業の目的の達成に関する自己評価と教育実践に関する問題点や
自己の課題をさらに探求する機会とする。

②本授業の実施者には本授業の目的の達成に関する評価及びそれに基づいた今後の課題の
検討の機会とする。

※野外教育体験活動を通して、子どもの気持ちや行動を理解することや実践的指導力の基礎を
身に付けるという目的にどのように迫れたか、受講者同士の体験内容を相互に交流すること
により、今後の教育実践に関する問題点や自己の課題を確認し、レポート課題を明確にもてる
ようにする。

以下のような流れでシンポジウムを行う予定である。

①体験（野外教育体験において）をしたことをもとにグループで意見交流

ア 野外教育活動にかかわる基礎的知識や技能を実践的に身に付けること

イ 子供たちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身に付けること

ウ 自分自身のこれからの教育実践にかかわる課題を探求すること

※以上の3つの視点をもとに、自分が学び考えたことを意見交流する。

※各シンポジストの先生方も各グループの話し合いに入ってください。

②各グループの意見を発表（グループ代表：五色台でのグループを基本に）

各グループで話し合ったことを、上記の視点を中心にまとめて代表者が発表する

（とりのこ紙にまとめたこと等をもとにポイントを明確にして発表する）

③関係者によるシンポジウム

・香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課（社会教育指導主事）

・香川県五色台少年自然センター（担当者）

・香川大学関係者（附属教員・大学教員）

※シンポジウムの内容

ア 各グループからの発表を聞いて（感想：コメント）

イ 受講生への助言

（この授業での体験を踏まえ、今後教職を目指す上でのアドバイス等）

ウ 本フレンドシップ事業の今後の在り方（改善点等） など

教育情報環境の整備による大学と公立学校との連携・情報交換

～昨年度までの「情報ネットワークによる大学と公立学校との連携・情報交換」をもとに～

これまで附属教育実践総合センターでは、本学附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）の先生方、ならびに当センター客員研究員の方々に、各先生方の専門分野の観点から、「児童生徒の見方・捉え方」や「カリキュラム開発のポイント」「教材・教具づくりの工夫」などについて、具体的な教科指導内容などをふまえながら解説いただき、話題ごとにビデオクリップ教材としてまとめ、インターネット上で動画配信してまいりました。

平成26年5月より、当センターの業務見直し・精選の一環として、インターネット上での動画配信を停止し、当センター事務室に当該教材を集録したDVDソフトウェアとして配架整備をすすめております。これらDVDソフトウェアについては、本学附属学校園の先生方のみならず、県教育委員会・県教育センター・公立学校の先生方などにも閲覧いただき、自己研修などにご活用いただけるよう、環境整備を行っております。

香川大学教育VODサービス - Windows Internet Explorer

http://www.ymw.co.jp/kad

香川大学教育学部 附属教育実践センター

香川大学教育VODサービス

ご覧になりたいカテゴリをクリックしてください。

幼稚園 小学校 中学校 養護学校 全般

Windows Media Player FREE このコンテンツをご覧になるには Windows Media Player が必要です。

公開中のコンテンツ一覧

- 子供たちの余暇を広げるための「放課後活動」
- 社会参加に向けた進路指導
- 保健室における健康教育
- 紅白梅図屏風の鑑賞 - プレゼンテーションソフトによる美術鑑賞教材 -
- 今、求められているエネルギー学習
- 学校支援ボランティアの活用と課題について
- 「思考力」を育む少人数指導を通じた理科学習

香川大学教育学部
附属
香川
附属
香川
附属
香川
附属
香川
附属
香川
附属

紅白梅図屏風の鑑賞 - プレゼンテーションソフトによる美術鑑賞教...

http://www.ymw.co.jp/kadai/contents33.htm

紅白梅図屏風の鑑賞 - プレゼンテーションソフトによる美術鑑賞教材 -

本実験の目的は、日本美術の概括的変遷において重要な位置づけを成す琳派の鑑賞を通して、装飾的造形表現に関心をもち、そのよさや美しさを感じさせ、日本の美術文化を尊ぶ心情を涵養することにある。造形理解を促す鑑賞の手だてとしては、プレゼンテーションソフトによる資料提示を行い、造形養成の比較分析をさせたものである。

ダイヤルアップ 接続の方 PLAY

ブロードバンド の方 PLAY

Contents 33

ページ インターネット 100%

高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）について

1 概要

本事業は、平成 15 年 2 月 13 日に高校生等に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、学問に対する興味・関心や自ら学ぶ意欲を高めさせるとともに主体的な進路選択ができるようにするため、県教育委員会と香川大学との間で高校と大学との連携に関する協定を結び、県下のすべての高校生等が、香川大学の授業や高校生を対象とした公開講座を受講できるようにしたものである。

2 授業の公開・開講状況・受講状況

平成 26 年度の第 1 学期には、「子育ての今と昔」「歌唱法基礎 A」「工芸 I A 及び工芸 I B」の 3 科目が、第 2 学期には「歴史学 キリスト教と西洋文化」「物理学概論 II」「日本近代文学史・日本近代文学史概論」「福祉住環境論」の 4 科目が、放課後に大学へ通学して大学生と一緒に受講するものとして公開された。これらの授業は 16:20～17:50 もしくは 18:00～21:10 に行われている。

また、夏季休業中には、オープンキャンパスの一環として高校生を対象に実施する体験授業として、「教育について考える～自分の可能性を拓くために～」を実施した。

「子育ての今と昔」を 1 名、「歴史学 キリスト教と西洋文化」を 1 名、「教育について考える～自分の可能性を拓くために～」を 56 名が受講した。

3 受講の手続き

受講までの具体的な手続きは、大学での受講を希望する生徒が、学修を行うにふさわしいかどうかを校長が判断し、県教育委員会を通して大学へ推薦する。大学側で人数等の調整を行い、県教委に対して受講決定に関する通知を行い、県教委はその結果を各高校を通じて受講者に通知する。

4 授業料等

授業料については、公開授業が 1 科目あたり 2,300 円、体験授業はオープンキャンパスの一環として実施するので無料である。ただし、大学の教員が指示するテキスト等の代金、大学の施設・設備を誤って汚損した場合に備えて賠償責任保険への加入料（1,000 円程度）が望ましい。

5 成果の認定等

受講状況が良好であり十分に成果を上げたと認められる生徒に対しては、大学から修了証書が発行される。なお、体験授業については、修了証書は発行されない。

また、学校外の学修に関する単位認定制度を設定している学校においては、生徒の申請を受けて審議し、校長の判断により高等学校の単位として認定することができる。

学生ボランティア派遣事業

1 対象

将来教育関係の分野に進むことを希望する香川大学の学生

※ 前期募集は2学年以上、後期募集からは第1学年も可とする。

2 主な活動内容

小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）へ派遣し、学習活動、野外活動及び体験的な活動等学校生活全般において、児童生徒とともに活動する中で、児童生徒の心の悩み等の解消や学校教育活動の活性化を図る。

ア 小・中学校

- ・ 学習活動の補助
- ・ 体験活動や校外学習など学校教育活動及び学校行事への補助
- ・ 学校生活への適応補助
- ・ 別室登校生等への指導補助

イ 教育支援センター（適応指導教室）

- ・ 日常活動の補助
- ・ 生活指導・学習指導の補助
- ・ 野外活動等体験活動の補助

3 大学と教育委員会との連携内容

ア 募集前に本事業についてのガイダンスを行う。（大学）

イ 学生ボランティアの募集票の提示と登録名簿の作成を行う。（大学）

ウ 希望者の派遣先へ通知する。（県教委）

エ ボランティア活動中に随時学生の相談を行う。（大学と県教委）

オ 年度末に本事業に参加した学生による発表会を実施する。（大学）

カ 年度末に大学と県教委が協議会を行い、意見交換を行う。（大学と県教委）

キ ボランティア終了後、派遣校からそれぞれの学生への評価等によって感謝状を贈る。（県教委）

学生ボランティア派遣状況（H27.1.9 現在）

	25年度						26年度					
	登録(継続含む)			派遣(継続含む)			登録(継続含む)			派遣(継続含む)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	0	4	4	0	4	4	0	0	0	0	0	0
2年	10	17	27	10	19	29	4	7	11	4	7	11
3年	1	20	21	1	22	23	0	11	11	0	11	11
4年	2	10	12	2	10	12	1	14	15	1	13	14
院生等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	51	64	13	55	68	5	32	37	5	31	36

派遣先

	25年度			26年度		
	要請があった学校数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等	要請があった学校数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等
小学校	48	16	32	45	9	36
中学校	9	4	5	6	1	5
教支援セ	2	0	2	0	0	0
計	59	20	40	51	10	41

派遣要請に対する派遣率(33.8%)

派遣要請に対する派遣率(19.6%)

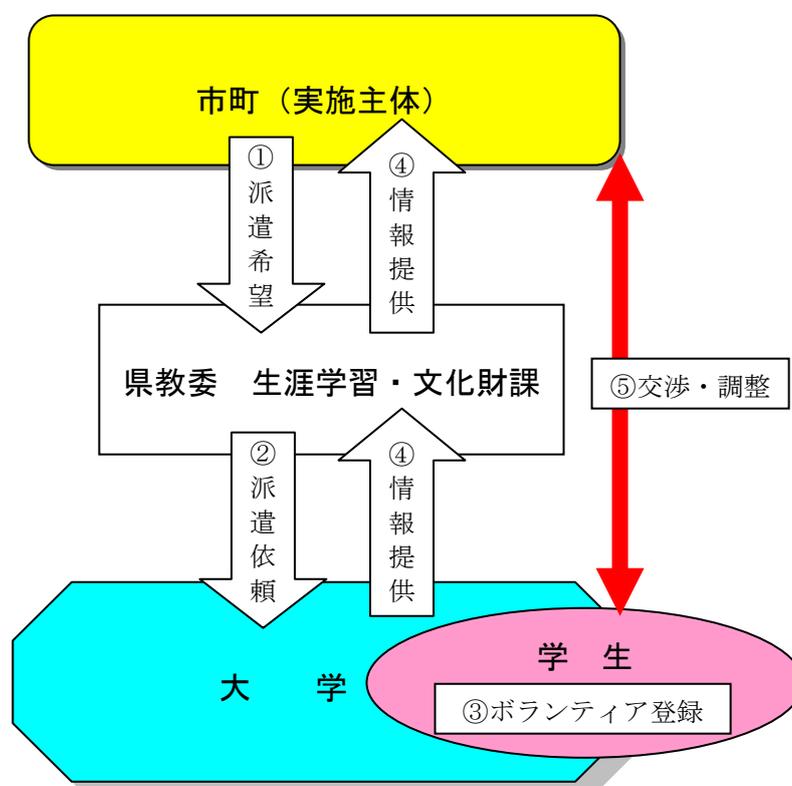
学生ボランティア派遣事業 (放課後子ども教室)

香川県教育委員会事務局
生涯学習・文化財課

放課後子ども教室の活動を支援する人材確保対策として、香川大学に学生ボランティアの派遣について依頼を行う。

【ボランティアを開始するまでの流れ】

- ①実施主体である各市町からの派遣希望を取りまとめ
- ②大学に学生ボランティアの派遣について依頼
- ③ボランティアを希望する学生は大学に登録
 - * 「学生ボランティア登録申込書」に必要事項を書き込み、「放課後子ども教室」の欄にチェックを入れ、希望する子ども教室名を記入
- ④その登録情報を関係する各市町へ情報提供
 - * 各市町の担当者から登録した学生に協力依頼の連絡
- ⑤具体的なボランティア活動への参加に当っては、市町（実施主体）と学生との交渉・調整により実施



第 13 回「未来からの留学生」

実施委員会

2014年10月12日(日)に第13回目の「未来からの留学生 教育学部フェスティバル in 香大」を実施しました。天気にも恵まれ、本年も1000人を超える来場に恵まれました。

本年度の大きな特徴は、学生運営委員会を組織したことです。教員養成の2年生を対象とした「教育実践プレ演習」とも連携して、教育学部両課程の2年生に子どもたちと関わる活動を推奨しました。その一環で、2年生を中心に実行委員となってくれるように依頼しました。(もちろん他の学年の多くの学生・大学院生の協力もありました)

学生運営委員長：前田悠登くん(数学)、副委員長：新谷健太郎くん(理科)、中野美沙さん(教育)、パンフレット作成：植村結花さん(幼児)、HP担当：神野あかりさん(家庭)、ポスター担当：太田捺美さん、伊藤綾香さん(美術)の他、数多くのメンバーが、事業全体の事務作業を担ってくれました。もちろん、多くの大学教員、事務スタッフの支援があつての行事運営であることにまちがいありません。



人間環境コース：香大アドベンチャー



国語領域：いざ行かん！百人一首の世界へ

本年は、15の自由参加講座、17の事前申込講座を開講しました。学生たちが様々に工夫を凝らして子どもたちを迎えていました。



発達臨床コース：夢の国へレッツゴー



理科領域：サイエンスハウス

平成26年度特別支援教育コーディネーター協議会

1 目的

幼稚園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

2 対象 及び 受講者数

	月日	地域	対象	受講者数
全体	7月22日	全県	幼稚園・小学校・中学校・高校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	349名
県立	9月18日	全県	高校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	57名
地域別	9月25日	高松	幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーター	92名
	10月1日	仲善	幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーター	41名
	10月14日	中讃	幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーター	56名
	11月5日	西讃	幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーター	61名
	12月2日	小豆	幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーター	19名
	12月3日	東讃	幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーター	36名

3 研修テーマ 及び 講師 (香川大学)

実施日	研修テーマ	講師 (香川大学教育学部)
7月22日	特別支援教育概論	准教授 小方 朋子
	発達とコミュニケーション	教授 坂井 聡
9月18日	高等学校における支援	教授 坂井 聡
9月25日	心理教育アセスメント ～評価から支援へ～	講師 中島 栄美子
10月1日	行動面の問題への対処と社会性の支援	教授 武蔵 博文
10月14日	学習指導 算数学習の困難とその指導	教授 長谷川 順一
12月2日	協調運動障害の特徴と体育授業での配慮	准教授 米村 耕平
12月3日	学校支援体制と外部機関との連携	准教授 宮前 義和

平成 26 年言語活動指導力向上セミナー 開催要項

1 趣 旨

言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について知るとともに「話すこと」や「読むこと」に関する演習等を通じて、小・中学校における教員のことばの技能を高めることで、言語活動の指導力向上の一層の充実に資する。

2 主 催 香川県教育委員会

3 期 日 平成 26 年 8 月 20 日（金）

4 会 場 県庁本館 12 階 3・4 会議室

5 日 程

9:00 9:30

12:00 13:00

16:25

	演習Ⅰ：発声、話す、読む		演習Ⅱ：音読を指導する	演習Ⅲ：音読を評価する
受 付	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の発声及び話しことばを点検する。 ○ 分かりやすい話し方や的確に伝わる話しことばの組み立て方を学ぶ。 ○ 文章の意味を的確に伝える読み方、自然な息で話すように読むことの大切さを学ぶ。 	昼 食	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際の音読指導を通じて、読むことの技能を高めるための効果的な指導法について学ぶ。 ・個人差が大きい場合について ・楽しんで読むことについて 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読大会の模擬審査会を通じて、評価規準や審査上の留意事項等について意見を交換する。

6 指導者 演 習：H S K放送制作株式会社 代表取締役 小板 哲明 氏

7 受講者

(1) 受講資格

これまでに本研修を未受講の者のうち、言語活動の充実又は音読や読書の指導等に意欲的に取り組んでいる教諭又は指導教諭で、今後、校内及び地域の教員のことばの技能を高める上で指導的立場に立つことが期待され、関係教育事務所長の推薦を受け、香川県教育委員会事務局義務教育課長の承認を得た者とする。

(2) 受講者数

16 名（小学校 12 名、中学校 4 名）

(3) 成果の還元及び普及

- ・受講者は、様々な機会をとらえ、積極的に本研修における成果を校内及び域内の学校等に普及するよう努めるものとする。
- ・受講者は、音読カップ予選会（平成 26 年 11 月 21 日）の審査の中心となる。

(4) 備考

- ・聴講生として、「第 8 回きょうから音読名人！」の実行委員（香川大学教育学部学校教育基礎コースの学生 10 名程度）が参加する予定である。

理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の事業で、香川大学と香川県教育委員会が共同して提案した企画「日常生活や社会との関連を意識した授業実践力の向上を目指した CST 養成システムの構築と実践」が、平成 23 年度に採択された。支援期間は平成 26 年度までで、平成 26 年度の主な取組みは以下のとおりである。

1. 養成拠点の構築

香川大学教育学部、香川大学教育学部附属高松小学校、香川大学教育学部附属高松中学校、香川大学教育学部附属坂出小学校、香川大学教育学部附属坂出中学校、香川県教育センター、高松市総合教育センター、高松市立新番丁小学校、さぬき市立津田小学校、三豊市立詫間小学校、坂出市立坂出小学校、土庄町立土庄小学校、丸亀市立飯山北小学校、多度津町立四箇小学校

2. 受講者

(1) 学生

小学校 CST=179 名(継続 109 名、新規 70 名)
 平成 26 年度前期修了 31 名、後期修了予定 15 名
 (平成 23 年度修了 6 名、平成 24 年度修了 37 名、平成 25 年度修了 59 名)

教材 CST=40 名(継続 28 名、新規 12 名)
 平成 26 年度前期修了 0 名、後期修了予定 5 名
 (平成 24 年度修了 4 名、平成 25 年度修了 1 名)

授業 CST=3 名(継続 3 名、新規 0 名)
 平成 26 年度前期修了 0 名、後期修了 0 名

(2) 現職教員

教材 CST=51 名(継続 32 名、新規 20 名)
 平成 26 年度前期修了 6 名、後期修了予定 20 名
 (平成 24 年度修了 12 名、平成 25 年度修了 5 名)

授業 CST=7 名(継続 7 名、新規 0 名)
 平成 26 年度前期修了 1 名、後期修了予定 0 名
 (平成 24 年度修了 12 名、平成 25 年度修了 1 名)

3. 教材 CST 研修会

3-1. 小学校理科観察・実験研修会講師実習講座

	日付	内容	場所
1	2014 年 7 月 30 日	小学校理科授業スキルアップ教室 理科室の管理・運営に関する基本事項、安全確保に関する研修、観察・実験の基本的な技能について、理科学習の進め方について、電気に関する学習を中心とした新内容の指導について、天体・気象等に関する実験・実技	サテライト校 ・高松市立新番丁小学校 ・丸亀市立飯山北小学校 ・坂出市立坂出小学校 ・土庄町立土庄小学校 ・さぬき市立津田小学校 ・多度津町立四箇小学校 ・三豊市立詫間小学校

2	2014年10月25日	高松塾 ・観察・実験の基本的な技能について ・第4学年「水のすがたとゆくえ」 ・第5学年「魚のたんじょう」 ・第6学年「電気の利用」	香川大学
---	-------------	--	------

3-2. 実験・観察教材開発研修会

	日付	内容	場所
1	2014年5月14日	流れる水の働き、つなごう！回路も知識も生活も！	附属高松小学校
2	2014年5月23日	イカの解剖	香川大学
3	2014年5月29日	ものの燃え方	附属坂出小学校
4	2014年6月10日	植物を育てよう、物の体積と温度、動物のからだのつくりと運動 など	附属高松小学校
5	2014年6月19日	容器の中に磁力線を見よう、ビンの中に雲を作ろう など	附属坂出中学校
6	2014年6月23日	葉のつくり、光合成と二酸化炭素の関係 など	附属高松中学校
7	2014年6月25日	電気と私たちの暮らし など	附属高松小学校
8	2014年6月26日	環境調和型機能性材料を活用したマイクロケミストリー教材開発	香川大学
9	2014年7月6日	土の教材化	香川大学
10	2014年7月10日	すごいぞ 電気の力 ―電気のはたらき―	附属坂出小学校
11	2014年7月29日	根や茎のつくりとはたらき、水の吸い上げと蒸散	附属高松中学校
12	2014年8月4日	さまざまな自動気象観測装置とその取り扱い	香川大学
13	2014年8月25日	身の回りの物質、化学変化と原子・分子	附属高松中学校
14	2014年9月25日	植物(気孔と蒸散)、スカイスクリューをつくらう	附属坂出中学校
15	2014年9月27日	欧米の新しい理科授業を学ぶ	香川大学
16	2014年10月1日	状態変化(ポップコーンの作成)、化学変化(べっこうあめ)、ウミホタルの観察	附属高松中学校
17	2014年10月16日	帰っておいでを作ろう、生物分野で使える教材の紹介、アサリの解剖	附属坂出中学校
18	2014年10月18日	現在のエネルギー資源の需要動向と温泉	香川大学
19	2014年10月30日	腕の筋肉モデル、小型流水実験装置、人のたんじょうの実践から	附属坂出小学校
20	2014年11月20日	ふりこメトロノームの制作、ものの体積と温度	附属坂出小学校
21	2014年11月20日	慣性の法則を利用した教材、生物分野、天体で使える教材の紹介、放射線について	附属坂出中学校
22	2014年11月25日	状態変化(金属の融点)、電気の世界(抵抗について)、仕事とエネルギー(ピーナッツ)	附属高松中学校
23	2014年11月29日	最近見える天体について	香川大学
24	2014年12月4日	てこのはたらきを生活に生かそう、手作り懐中電灯、カップを	附属坂出小学校

		使った地下水のでき方	
25	2014年12月26日	望遠鏡の作成、天体観測、天体ソフトの活用	附属高松中学校
26	2015年1月25日	野鳥の観察	香川大学
27	2015年2月12日	生物リズムの仕組みを物理学から探る	香川大学
28	2015年2月19日	教材紹介	附属坂出中学校
29	2015年2月26日	教材紹介	附属坂出小学校

3-3. 理科授業力向上研修会

	日付	内容	場所
1	2014年6月13日	物体が色づいて見えるのは 天動説と地動説～ガリレオのものがたり～	附属坂出中学校
2	2014年6月28日	「もののとけ方」～とけるってどういうこと～	附属高松小学校
3	2014年7月2日	「生命の連続性」—遺伝の規則性と遺伝子—	高松市立古高松中学校
4	2014年10月11日	ものの体積と温度	附属坂出小学校
5	2015年1月25日	電流が生み出す磁力の世界—電磁石の秘密— すがたを変える水のゆくえを探れ—自然のなかの水のすがた—	附属坂出小学校
6	2015年2月5日	「見えない力」の秘密を探れ(磁力編) 問題解決って楽しい！～電磁石の働き～	附属高松小学校
7	2015年2月6日	㊦物の正体や性質を暴こう㊥～物の温まり方編～	附属高松小学校

4. 小学校 CST 小学校理科基本実験修得コース

4-1. ふりこのきまり

5月15日、5月19日、6月9日、6月19日、7月10日、7月14日、
11月11日、11月13日、12月25日

4-2. もののおもさをくらべよう

5月7日、5月8日、6月10日、7月17日、7月17日、
11月7日、12月15日、12月16日

4-3. 野外の植物を観察しよう

5月27日、5月30日、6月6日、7月2日、
11月5日、11月19日、1月8日

4-4. 魚の血管と血液の流れの観察

5月8日、5月15日、6月19日、6月26日、7月10日、
11月5日、11月6日、12月9日、12月10日、1月9日、1月21日

4-5. 望遠鏡を用いた天体観測

5月7日、5月8日、5月13日、11月27日、12月2日、1月

4-6. 天気の変化を測ってみよう

前期—日程①6月6日、13日 日程②6月13日、20日 日程③6月20日、27日
日程④6月27日、7月4日 日程⑤7月4日、10日

後期一日程①10月30日、11月7日 日程② 11月7日、14日

日程④1月15日、1月23日 日程⑤1月23日、1月30日 日程⑥1月30日、2月6日

4-7. 珲素でんぷん反応

5月27日、5月29日、6月6日、6月16日、7月7日、7月15日、
11月25日、12月8日、1月28日、1月29日

4-8. 手回し発電機と光電池

5月13日、5月15日、6月11日、6月17日、7月1日、7月9日、
12月9日、12月18日、1月13日

4-9. 試葉の希釈と廃液処理(中和)の方法

5月7日、5月21日、6月5日、6月26日、7月24日、
11月5日、11月19日、1月22日

4-10. 理科室の使い方(附属小学校)

附属高松小学校:5月14日、5月28日、6月4日、6月10日、6月25日

附属坂出小学校: 5月22日、7月3日、11月27日、12月11日、2月19日

5. CST報告会「第2回 東北の震災に学ぶ」

2011年3月11日に発生した東日本大震災に関して、そこから学び、理科授業実践力の向上に活かしていくことは、香川CST事業において重視してきたことの一つである。そのために実施してきた被災地調査の第2回報告会を教材開発や授業プランの構想、あるいは理科を学ぶ意義の明確化等に、活用していただければと考えて、開催した。

また、報告会終了後、CSTおよびCST受講者が開発・工夫した教材の紹介を行った。

・2014年6月28日(土) 10:00~12:00 香川大学教育学部 出席者:約50名

1. 津波被災小・中学校の状況と理科教育の課題

北林雅洋(香川大学教育学部教授)

高橋尚志(香川大学教育学部教授)

大西歩実(香川大学大学院教育学研究科)

2. 釜石市栗林(くりばやし)小学校との交流を通して

藤本泰雄(香川大学教育学部附属教育実践総合センター客員教授)

教材紹介

橋慎二郎(香川大学教育学部附属高松小学校教諭) 教材・授業 CST
「乾電池の種類別の持続時間と強さを調べるための装置

森真佐純(香川大学教育学部附属坂出小学校教諭) 教材・授業 CST
「サーモインクで見えた『水のあたたまり方』

「テスラメーターを使った『発見!電磁石の秘密』の実践」

吉井雅英(香川大学教育学部附属高松中学校教諭) 教材・授業 CST
「トラディスカンティアの葉の観察」

鷲辺章宏(香川大学教育学部附属坂出中学校教諭) 教材・授業 CST
「水素と酸素の簡易化合装置」

「ミニクント管」

若林教裕(香川大学教育学部附属坂出中学校教諭) 教材・授業 CST
「音でガラスを割る」

「ループコースター&力学的エネルギーの保存」

高橋尚志（香川大学教育学部教授）沖 夏衣（香川大学教育学部4年）

「サーモグラフィの活用」

報告会参加者のアンケートより

（報告会の印象）

- ・短い時間の中で大変充実した内容の研修を受けることができました。
- ・地震の後、現地へ行ったことがないので大変興味深かった。
- ・藤本先生のお話から学校としての震災の向き合い方など教えていただきました。
- ・「想定内」「想定外」をどう考えるか。具体的な検討がさらに必要だと感じた。
- ・なかなか東日本大震災の現状や実際の様子を見たり聞いたりできないままこれまで過ごしてきた中、東北地方の具体的な現状を聞くことができ、本当に勉強になりました。
- ・具体的な（体験的な）お話がとても参考になった。もっと参加者の話の機会を作るためにグループ活動を取り入れてもよいのではないかと思った。
- ・実際の避難経路の写真は当時の切実な様子が分かって勉強になる。日頃の訓練の大切さがよく分かる。藤本先生の話も納得できる部分が多かった。（知識・技能・心情）の3つは大切だと思う。
- ・香川だとどうしても「対岸の火事」的になってしまうので、定期的にこのような機会を設けるのは良いと思われる。
- ・いずれの報告も現地を訪問された調査や面談に基づいており、説得力がありました。加えて、理科教育や防災教育についても示唆に富んだ本質的なお話をお聞きすることができました。
- ・実際に現地を歩いたり見たりしたことが報告されており、震災のことを、今まで以上に身近なものと感じることができました。
- ・理科教育の視点から東北の震災について考えられた。CSTの教材を見ることができた。
- ・藤本先生のお話を聞くことができ良かったです。他の先生方もそうですが、実際に行ったことがある人のお話を聞くのはなかなかないので、向こうの小学校の避難の様子や取り組みなどを知れて良かったです。
- ・初めて、このような会に参加させていただきました。地震はいつ起こるか分かりませんが、準備をすることは十分可能です。その「準備」をどれだけ綿密に行うかという重要性が報告からひしひしと伝わってきました。
- ・避難し続ける難しさ、想定を超えた具体的な取り組みについてのお話がとても参考になりました。
- ・短い中でとても内容の濃い時間を過ごすことができました。また資料をじっくり読みたいなと思います。
- ・現場の生の声が伝わりました。やはり実物はいいと思いました。
- ・防災はますます大切な内容であり、理科としてカリキュラムを検討し、学校教育全体として、有用なものを提案できると良いと思いました。

（意見・感想）

- ・今後ともなかなか学校現場で得られないような貴重な情報を得る機会にさせていただけたら幸いです。（例）最新の科学技術についてなど
- ・教材研究がおもしろく、ためになりました。

- ・本日のようなやり方のほうが教材を紹介しやすい。質問ももらえるし、気軽にできる。
- ・教材の紹介は、今回のようなポスターセッション形式の出前もあり得ると思った。
- ・多くの先生方との交流の機会もあり、すごくうれしいです。
- ・教材研究についてもいろいろと見させていただき、私自身の新たな学びにつながった。
- ・今 CST をとっていませんが、今からでもとろうかなと考えました。
- ・教材紹介をじっくりしてほしかった。
- ・お互いの研究を紹介し合うことで、確実に教育力の向上につながっていくのでとても良い取り組みだと思う。
- ・CST を始めたばかりなのですが、とても学ぶことの多いことばかりで、積極的に参加していきたいと思います。
- ・理科にはお金と情報が必要です。とてもいい事業だと思います。

6. 第2回香川CSTシンポジウム「理科教育の充実に向けた教員養成・研修の新たな展開」

—理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業—

- ・2014年12月13日（土）13:00～17:30

香川大学幸町北キャンパス OLIVE SQUARE（多目的ホール）

出席者：約60名

第1部 養成・研修の新たな展開

1) 香川 CST 事業の概要 —主な成果を中心に—

北林雅洋（香川大学教授）

大浦静二（香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事）

2) CST および受講者からの報告

沖 夏衣（香川大学教育学部4年）教材CST養成プログラム受講者

「学生から見た CST 養成プログラム」

高橋正人（香川大学教育学部附属高松小学校教諭）教材・授業CST

「香川 CST 事業から得られた実感」

3) CST 事業関係者からの報告

永澤 明（埼玉大学名誉教授）

「Saitama CST と埼玉大学の理数科教育支援事業との連携」

津野 宏（横浜国立大学准教授）

「神奈川における CST 養成と活動の今と展望」

浅原雅浩（福井大学教授）

「福井 CST 養成・支援事業の今とこれから

～ 福井の理科教育を支える大学と地域の協働 ～」

山岡由賀（高知県香美市教育委員会教育振興課指導主事）

「香美市における理科教育の推進」

第2部 ポスター発表、教材紹介（養成・研修の成果の交流）

1)ポスター発表

西田俊章（神奈川県横浜市立宮谷小学校教諭）

「なぜ理科授業で実験をするのか」

納田健太（高松市立木太南小学校教諭）

「つなげよう高めよう理科力・教師力

裾野を広げ指導技術を確実に伝承するための CST の活動」

北林雅洋（香川大学教育学部教授）大西歩実（香川大学大学院教育学研究科 2 年）

「東日本大震災における津波被災小・中学校の状況と理科教育」

2)教材紹介

森真佐純（香川大学教育学部附属坂出小学校教諭）教材・授業 CST

「アルキメデスに迫る ―このはたらきを調べよう―」

「母の愛情・胎児の生命力の実践から」

納田健太（高松市立木太南小学校教諭）教材・授業 CST

「理科教育×防災教育 ―アルミ缶炊飯―」

米谷直樹（観音寺市立柞田小学校教諭）教材 CST

「机の上でじっくり観察できる体積実験器」

脇坂 敦（高松市立屋島小学校教諭）教材 CST

「サーモインクを使った教材開発」

鎌田明美（丸亀市立飯山北小学校教諭）教材 CST

「省スペース・少人数でできる「太陽と月の形」モデル実験」

若林教裕（香川大学教育学部附属坂出中学校教諭）教材・授業 CST

「浮力を学ぶ意味や価値を実感させる教材と指導展開」

吉井雅英（香川大学教育学部附属高松中学校教諭）教材・授業 CST

「インターバル撮影を使った教材作成について」

山内直樹（高松市立一宮中学校教諭）教材 CST 受講者

「天体学習において 容易に視点移動ができる小型ウェブカメラの活用」

今村祥史・沖 夏衣（香川大学教育学部 4 年）教材 CST 受講者

「磁石の磁界を立体的に見てみよう」

今村祥史（香川大学教育学部 4 年）教材 CST 受講者

「ビンの中に雲をつくろう！」

西山友貴（香川大学教育学部 4 年）教材 CST 受講者

「安定した流量の小型流水実験装置」

参加大学・JST から香川 CST へのコメント

山岡由賀（高知県香美市教育委員会教育振興課指導主事）

浅原雅浩（福井大学教授）

津野 宏（横浜国立大学准教授）

永澤 明（埼玉大学名誉教授）

山岸 恒夫（独立行政法人科学技術振興機構主査）

シンポジウム参加者のアンケートより

（シンポジウムの印象）

- ・香川 CST の先生方の取り組みが多方面でご活躍されているのがとてもすごいと思いました。
- ・CST 教員の交流につながると感じた。（他県も含めて）
- ・理科教育の充実のために、指導者の育成・研修はとても大切なことだと思いました。
- ・他県の取り組みを知ったり、CST の役割や意義など大変参考になった。

- ・様々な視点からの取り組みを聞くことができた。また JST の支援終了後もどのように質を落とさず、継続させていくのか等も知ることができ参考になった。
- ・大学、教育委員会、教員 (CST) の 3 つが関わるのがダイナミックで良いと思います。この連携がさらに蜜になることを望みます。
- ・他県の取り組みについて知ることができたことと、教材について勉強ができたことが良かったです。
- ・他県の実践や受講者の発言が聞いて参考になりました。
- ・積極的にそれぞれの活動を聞き入る雰囲気があった点。
- ・各県の CST の進め方、認定の仕方から理科教育に期待される役割を再発見できた。

(各プログラムの内容について)

「CST および受講者からの報告」

- ・より具体的な内容を見たり聞いたりすることができ、共感できました。興味・関心を高めることができた。
- ・学生の声が聞けたのが良かった。今後そのような新採に向けた研修を考える上で参考になった。
- ・受講者の立場から考えるのは初めてであった。
- ・受講者の声を聞くことはなかったのでいい機会となった。
- ・つつい研究会へ行くと、明日すぐに使えるネタは何か？という視点で参加をしてしまうが、今回、そもそもなぜ CST 事業に参加しているのか、各学校での取り組みは、といったポスター発表から理科に関与するものとして非常に考えさせられた。

「CST 事業関係者からの報告」

- ・福井大学のニュースレポートの「わくわく理科ランド」の取り組みが 260 人申込という教育県「福井」を感じた。
- ・他県でも特色ある取り組みがなされていることが分かり、興味深かったです。
- ・香川県以外の CST の取り組みが聞いて、非常に参考になりました。いいところを取り入れて、香川を発展させていただきたいと思います。
- ・他県での状況聞き、今後の見通しを持つことができた。

「ポスター発表、教材紹介」

- ・現場で活かせるような良いヒントをたくさん得ることができた。
- ・教材作りのアイデアがとても参考になりました。自分でも工夫してみたいと思いました。
- ・ポスター発表における情報交換が有益でした。
- ・小学校の取り組みを伺う機会があまりないので、参考になり興味深く感じられた。
- ・学生の方の教材研究がとてもハイレベルで勉強になりました。

(その他、本シンポジウムや CST 事業についての意見・感想)

- ・支援事業終了後の大学、地元県の人、物 (予算) の組織的サポートが継続事業の成果に大きな観点であると思う。教育県香川の底力が試されると思うので期待している。
- ・CST 事業によって、確実に香川県の理科教育の指導者を育成することができたと思います。しかし、理科の教材を開発したり使ったりする時に予算がかかるので、それをいかに確保するかのシステムや方法が必要だと思います。
- ・CST 事業が長く続いていくには、お金だけでなく、いかに、現場の多くの理科専門または小学

校教員が主体的に取り組むことができる支援体制、組織づくりが不可欠なのではないかと思った。それと CST のメリットがここからどれくらいの価値があるものなのかが試されるのではないか。

- 時期的なもので、もう少し時間的なゆとりのある時期がありがたいと思いました。
- 全県下の小学校全体、中学校全体で取り組み内容などを具体的に紹介し、いろいろな方が参加し、受講できるような雰囲気になれば良いと思う。今後もぜひ CST 事業を続けてほしい。

覺書・要項

香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

(目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

(実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

(研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

(連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協力に当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

(連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

(経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

(補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長
惣 脇 宏

香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協議会要項

1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長
副学部長
教育研究評議員
実地教育委員会委員長
就職専門委員会委員長
学務委員会委員長
入試委員会委員長
附属学校代表
附属教職支援開発センター長
事務課長

香川県教育委員会

教育長
理事
教育次長
総務課長
義務教育課長
高校教育課長
特別支援教育課長
香川県教育センター所長